

掘りだそう、自然の力。

Calbee

カルビー株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-3
丸の内トラストタワー本館22階
広報部 TEL.03-5220-6226
<http://www.calbee.co.jp/>



この報告書は、FSC®認証紙、VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの100%植物性インキ、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷を採用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

掘りだそう、自然の力。

Calbee



カルビー株式会社

社会・環境報告書

2013 Corporate Citizenship Report

02 編集方針

04 トップメッセージ

06 ライフサイクルを通じた
カルビーのCSRへの
取り組み

～数字で見るカルビーグループ
(2012年度)～



08

特集

世界中の人々の健やかな
くらしに貢献するために



P10 地域貢献できる存在となるために
～カルビータナワット社(タイ)での
取り組み～

12 企業理念

マネジメント

13 コーポレート・ガバナンス

14 コンプライアンス・リスク管理

社会への取り組み

16 お客様のために

23 お取引先様のために

26 従業員のために

30 地域社会のために

環境への取り組み

34 環境マネジメント

37 地球温暖化防止への
取り組み

39 資源の有効活用

40 第三者からのご意見

41 会社概要



P29 ダイバーシティ委員会の
取り組み

掘りだそう、自然の力。

Calbee

企業理念

私たちは、自然の恵みを大切に活かし、
おいしさと楽しさを創造して、
人々の健やかなくらしに貢献します。



P33 「カルビーミナミナの森」で
森林保護活動を継続

編集方針

本報告書は、企業理念に基づくカルビーグループの社会的責任(Corporate Social Responsibility:CSR)に対する姿勢や取り組みについて、ステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えすることを目的としています。カルビーは、2007年度より報告書を毎年発行し、報告内容の充実に努めてまいりました。

2013年度版では、以下の点に留意して編集しています。

・特集では、世界中のお客様に喜ばれる商品を提供し、地域社会の発展と人々の健やかなくらしに貢献するための取り組みである、カルビータナワット社(タイ)の活動に焦点を当てて構成しています。

・2012年度の活動成果を分かりやすくお伝えするために、各ページに「2012年度の主な活動成果」をまとめています。

・明治大学の向殿政男 名誉教授に第三者意見を依頼し、当社の社会・環境活動に対してご意見、評価をいただきました。

対象期間

2012年度(2012年4月1日から2013年3月31日まで)。ただし、一部に2012年度よりも前、または2012年度以降の活動報告も含んでいます。

対象組織

カルビー株式会社を中心に、グループ会社に関する報告も一部含んでいます。

参考にしたガイドライン

・環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
・GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン(第3.1版)」

発行時期

2013年6月(前回2012年6月 次回2014年6月予定)

ホームページでも社会・環境活動に関する情報を開示しています。
URL:<http://www.calbee.co.jp/csr/>

免責事項

本報告書には、カルビーグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通しなどの将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手した情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。

また、各報告データは端数処理のために合計が合わない項目があります。読者の皆様には、以上をご了承いただきますようお願いいたします。

「さまざまなステークホルダーの皆様から 尊敬され、賞賛され、愛される会社になる」 これがカルビーのビジョンであり、CSRの基本姿勢です。

弊社が上場企業としての第一歩を踏み出して2年目となった2012年度は、ステークホルダーの皆様から、大きな期待をお寄せいただいていることを改めて実感しながら、一層のスピードと行動力を持って経営活動を進めてまいりました。2012年度も経営計画を達成することができましたことは、多くのステークホルダーの皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

安全・安心への取り組みを一層強化

弊社は創立以来、「私たちは、自然の恵みを大切に活かし、おいしさ楽しさを創造して、人々の健やかな暮らしに貢献します。」という企業理念のもと、原材料であるじゃがいもの栽培や貯蔵技術の開発に始まり、その調達から製造、店頭での販売に至るまですべての工程において品質管理を徹底し、お客様にとって安心できる高品質の商品・サービスを提供してまいりました。

お客様に対する責任の1番は安全・安心を前提にした「品質」、2番は「コスト」、3番は「供給」だと考えております。特に近年、お客様の食に関する安全・安心を満たした品質水準への要望はますます高まっています。このような中、昨年11月に当社製品「堅あげポテト」において、ガラス片混入という事態を発生させ、混入した恐れのある製品の自主回収をいたしました。多くの皆様に多大なご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げますとともに、安全に対して改めて強く認識し、徹底した品質管理体制の構築をはじめ、問題発生における再発防止への取り組みや、管理体制の一層の強化に努めてまいります。

継続的で多様な社会貢献活動で 社会的責任を果たします

社会貢献や環境保護、ダイバーシティの推進など企業として基本的に推進すべきCSR活動は、企業の持続的な成長に欠くことのできない重要な使命と考え、一時的な活動にとどまらず継続的に取り組み深めていきたいと思います。

2012年度は、震災遺児の進学を支援する「みちのく未来基金」や、「社会貢献委員会」を中心に被災地でのがれき除去作業など東日本大震災の復興支援活動をはじめ、子育て支援や健康の増進など、有益な社会事業や福祉に貢献する活動を推進しました。また、子供たちに食の正しい知識や楽しさを伝えるカルビー・スナックスクールや工場見学、地域の美化活動や行事への参加などの地域貢献にも積極的に取り組みました。弊社の事業は自然の恵みによって支えられており、事業活動の展開に伴う地球環境への負荷軽減は全社一丸となって取り組むべき重要な課題です。徹底した産業廃棄物の削減や再資源化の促進、CO₂排出量の抑制、水使用量の削減、森林保護活動なども積極的に行ってまいりました。

これらの活動の原動力となるのは、一人ひとりの従業員の力です。それぞれが自立的に成長し成果を出し続ける人・組織を目指して、女性の活躍推進や障がい者・外国人の雇用促進など多様な人材の活躍支援をはじめ、ライフキャリア面談や海外チャレンジ制度など自らチャレンジする人を積極支援する制度づくりも整備しています。また、ステークホルダーの皆様からの信頼にお応えするため、効率的で適切なコーポレートガバナンス体制を構築しており、全社を挙げてコンプライアンスを推進し、誠実な企業活動に努めています。今後も、多様なCSR活動を実践していくことで、社会的責任を果たしてまいります。

グローバル市場での競争力と 強い事業基盤の構築に向けて

弊社は継続的成長と高収益体質の実現を目指し、イノベーション(成長戦略)とコスト・リダクションを経営の2本柱とする事業活動を推進しています。特に、ビジネスチャンスを創出するためのイノベーション(成長戦略)においては、①海外事業の拡大 ②新製品開発 ③国内シェア拡大 ④ペプシコとの連携強化 ⑤L&A(Licensing & Acquisition) ⑥新規事業開発の6つを柱として、新たな展開を進めています。

食品業界を取り巻く環境は、国内人口の減少や少子高齢化、可処分所得の低下による消費低迷など厳しい状況が続いています。そのようななか、国内に留まらず、スピード感を持って世界展開しなくてはならないと考えています。2012年度は海外展開にあたって、中国や台湾、インドネシアでの合弁会社の設立や北米でのペプシコグループとの業務提携などを行いました。また、国内においては、主力のポテト系スナックの積極展開はもちろん、「ベジッパス」の全国展開や「フルグラ」をはじめと

するヘルス&ウェルネス分野への積極参入による市場シェアの向上、アンテナショップ等の新規事業への積極的な取り組み、集中購買や稼働率向上などによる製造原価率の低減などコスト・リダクションを進めました。今後もグローバル市場での競争力と、経営環境の変化に左右されない強い事業基盤の構築を目指してさまざまな取り組みを行ってまいります。

これからも革新を続けていきます

弊社のグループビジョンは「顧客・取引先から、次に従業員とその家族から、そしてコミュニティから、最後に株主から尊敬され、賞賛され、そして愛される会社になる」です。弊社のCSRはこのビジョンの実現にあると考えており、これを基本姿勢としてコーポレートメッセージ「掘りだそう、自然の力。」のもと、これからもステークホルダーの皆様のお声に耳を傾けながら革新を続けてまいります。今後とも、一層のご支援ご指導をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。



代表取締役社長兼COO

伊藤 秀二



代表取締役会長兼CEO

松本 晃

ライフサイクルを通じた カルビーのCSRへの取り組み ～数字で見るカルビーグループ(2012年度)～



じゃがいもの調達量
約25万t

- 原材料の品質管理
- 調達段階における材料管理
- 原料の安定供給
- お客様への情報開示
- 公平かつ公正な取引の徹底
- 品質向上に向けたお取引先様との連携強化

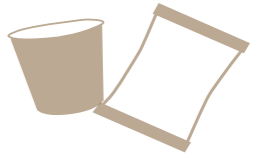
原料調達

商品開発・生産

- 現地ニーズ・嗜好に対応した商品の開発
- 品質保証体制の推進
- お客様への情報開示
- 地球温暖化防止への取り組み
- 資源の有効活用



生産量
約14億袋



物流

- 輸送時のCO₂排出抑制



共同配送によるCO₂削減量

555 t-CO₂



廃棄・リサイクル

- 資源の有効活用



再資源化率

95%



販売

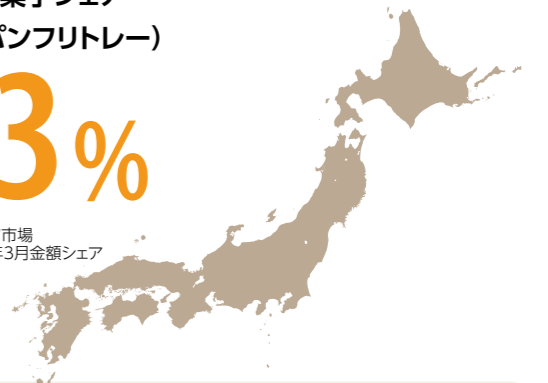
- お客様への情報開示
- 店舗での品質保証の徹底



日本でのスナック菓子シェア*
(カルビー+ジャパンプリトレ)

52.3%

*出典:インテリジェンスRI スナック市場
2012年4月～2013年3月金額シェア



お客様とのコミュニケーション

お客様からのご相談・ご指摘件数

51,580件



- 全件対応のお客様相談室
- お客様のニーズを商品開発に
- お客様との双方向コミュニケーション
- おやつを通じた地域貢献

カルビー・スナックスクール受講校数・受講者数

678校・約52,000名



人・組織



- 人を生かす組織・制度作り
- 多様な人材の活躍支援
- ダイバーシティの推進

従業員数(連結)

3,352名(2,753名)

※外書き()は臨時従業員の年間雇用平均人数

社会貢献活動



- 子育て支援
- 地域への支援
- 環境の保護

活動への参加人数

のべ 5,706名

世界中の人々の健やかなくらしに貢献するために

カルビーは、自然の恵みを活かした“安心・おいしい・楽しい”商品を世界の人々にお届けしています。そして、成長戦略の1つに「海外事業の拡大」を掲げ、一層のスピードと競争力をもって事業展開を図っていきます。

パートナーとの連携、現地化を軸に世界に広がるカルビーブランド

カルビーは海外売上げ比率30%以上を目指し、すでに展開していた米国の一部、香港、タイに加え、中国、北米、韓国、台湾を第1フェーズととらえ、現在は第2フェーズである欧州・ロシア、オーストラリア、インドネシア、マレーシア、ベトナム、第3フェーズでは、インド、ブラジルなどの国々に事業展開をしていく予定です。海外事業を進める上で、コスト、スピード、ローカ

ライゼーション(現地化)、パートナーに注力して取り組んでいます。高品質・低コストで現地のお客様の好みに合った商品を提供するため、最適なパートナーと提携し、スピーディーに、材料から製造設備、従業員、マネジメントまでを現地化することが重要だと考えています。カルビーは世界中の人々に愛されるグローバルブランドを目指して進化を続けていきます。

海外推進
担当者より

アジア・オセアニア地域担当より

カルビーのアジア地区事業は、既存のタイと香港での事業に加えてここ3年間でアジア各国での事業展開を加速しています。2011年には韓国でヘテ・カルビー、2012年には台湾で台北カルビー、2013年4月には中国で杭州カルビーがそれぞれ販売を開始し、少しでも多くのお客様にカルビーの味を楽しんでいただけるよう日々頑張っています。また、2014年にはすでに合併契約を締結したインドネシアWings社との現地生産に向け急ピッチで作業を進めており、さらにマレーシア、ベトナム、オーストラリアの皆様にもカルビー製品を楽しんでいただけるよう、日々の業務にいそんでいます。

海外第一事業本部
本部長
筈 啓英
(アジア・オセアニア地域担当)



北米／欧州・ロシア地域担当より

カルビーの北米事業は、2012年に大きな転換点を迎えました。従来別々に運営していたカルビーアメリカとRCFを合体し、新たにカルビーノースアメリカを設立し、「Harvest Snaps」や「Shrimp Chips」など最終製品の販売強化を進めるとともに、新たなラインアップとして「Jagabee」の生産をスタート、最強のパートナー・ペプシコとの共販体制を確立しました。また、欧州・ロシアではパートナー候補の選定を進めており、一日も早くカルビー製品を楽しんでもらえるよう、活動のスピードアップを図っていきます。

海外第二事業本部
本部長
岡部 豊
(北米／欧州・ロシア地域担当)



地域に貢献できる存在となるために

～カルビータナワット社（タイ）での取り組み～

現地に根付いて30年以上経つカルビータナワット社は、タイの人々のニーズや嗜好に対応し、文化や生活習慣にも配慮したさまざまな取り組みを行っています。

1 現地の方々に喜ばれる商品の開発・製造



商品の開発・製造技術は日本のものを導入し、安全・安心なものづくりの体制を構築しています。また、タイのお客様に喜んでいただける商品をご提供するため、特に商品の味、食感、香りに関しては現地従業員主導で企画開発を進めています。

さらに、開発・製造部門では、日本での研修を実施し、安全・安心なものづくりに対する意識の維持・向上と最新の開発・製造技術を習得しています。今後も現地の方々に喜んでいただけるものづくりへの取り組みを続けていきます。



2 従業員・家族の絆を深めるイベントを開催

日ごろ従業員を支えてくださるご家族の皆さんや、同僚・同僚のご家族と従業員同士の交流を図るため「ファミリーデー」を開催しています。2012年度はバンコク郊外にあるサイアム・パークシティへ行き、参加者同士が協力して行うグループ別のゲームやいろいろな乗り物、用具で遊び1日を過ごしました。前回よりもご家族の方々の参加者が増え、総勢346名が集まり親睦を深めました。

今後も、家族を大切にする職場の雰囲気づくりを行い、このようなライフワークバランス推進の取り組みを続けていきます。



▲ファミリーデー

3 地域の方々に信頼され親しまれる企業を目指して

カルビーグループの企業活動は、工場などのある地域の方々に支えられています。カルビータナワット社でも、従業員一人ひとりが地域のために何ができるかを考え、実行するため、従業員から地域支援に関するアイデアを募集し、毎年活動を行っています。

2012年度は、地域の小学校の多目的ホールの改装、学校の敷地を示す境界線の塀の新設や植樹、お寺の境内にある保育所のトイレ、給食室の改装などを行いました。



▲給食室の改装後

Calbee Tanawat Co.,Ltd 【会社概要】



- 設立 1980年
- 事業内容 各種菓子、食品品類の製造販売
- 従業員数 286名
- 本社所在地 バンコク（タイ）
- 工場 サムットプラカーン県
バンパー工業団地（バンコク近郊）

製造・販売する商品

- かっぱえびせん
- さやえんどう
- おさつスナック など

4 女性が活躍できる職場づくり～ダイバーシティの推進～

カルビータナワット社は従業員286名のうち、女性の工場長を筆頭に女性リーダー・マネージャーの比率が50%と高く、大勢の女性が活躍しています。これも産前産後の育児休暇や、妊娠期間中、身体に負担の少ない勤務に変更できるなど女性が働きやすい職場づくりに努めていることが理由のひとつに挙げられます。

また、さまざまな背景を持つ従業員の多様性を尊重し、リーダーやマネージャーなどの役職に必要な知識を身につけるための研修制度を設け、活躍してもらえるよう努めています。



5 子どもたちの笑顔と健やかな成長を願って

カルビータナワット社では、次世代を担う大切な子どもたちの育成支援活動として、従業員の子どもを対象とした奨学金制度を設けています。この制度が設立されて2年目の2011年度には、新たに幼稚園の子どもたちも対象に含めることとし、奨学金給付基準を満たした45人の子どもたちに奨学金が手渡されました。対象となった子どもたちの内訳は幼稚園25人、小学生16人、中学生1人、高校生3人です。これからも子どもたちの健全な育成と未来につながる支援を続ける予定です。（3年目の2012年度は、幼稚園22人、小学生29人、中学生2人、高校生2人の計55名）



タイ都市部で働く女性の環境はいろいろな面でよくなっています。以前は子どもを田舎に預けて働く母親が多い状況でした。しかし、現在は政府が提供する保育所が多く設立され、子どもと一緒に暮らせるようになりました。

また、夜間や週末に受講できるクラスが多く学校の設けられ、スキルアップのための勉強が容易になり、医学や工学など多くの分野で活躍する女性が増えました。カルビータナワット社においても、入社後に高校・大学の卒業資格を取得し、採用時と異なる業務や職層で活躍する従業員が増えてきました。また、キャリアサポートとして、リーダーシップ研修やスキルアップトレーニングなど、女性男性の区別なく実施しています。また、女性と男性の混成チームで業務を行い、仕事に対する熱意や将来リーダーになる自信などを身につける機会を提供しています。

カルビータナワット社
クワンユン工場長



▲奨学金授与式

コンプライアンス・リスク管理

2012年度の主な成果

- 1 事業所、グループ各社を含めた本社被災を想定した事業継続マネジメント(BCM)と避難訓練の実施
- 2 行動規範チャレンジミーティングの実施
- 3 職場の小ユニットでのコンプライアンス意識調査の実施

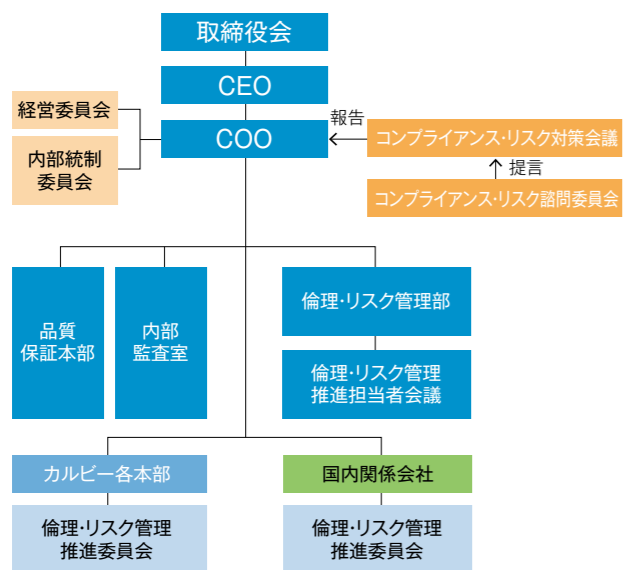
● コンプライアンス・リスク管理体制の強化

グループとして統一性のあるコンプライアンス・リスクマネジメントを推進しています

カルビーグループは、法令や社会的倫理を遵守し、また法令違反を含めた事業上のリスクを把握して予防策を講じていくために、2007年にグループ共通の「コンプライアンス・リスク管理規程」を制定し、「コンプライアンス・リスク対策会議」のもとグループ全体での体制強化を進めています。

想定される高度なリスクに対応していくため、外部有識者を委員長とする「コンプライアンス・リスク諮問委員会」(6名中3名が社外)を設けています。さらに「コンプライアンス・リスク対策会議」を中心として、リスクの未然防止やリスクが発生した場合のあらゆる対応力の強化を図っています。

■ コンプライアンス・リスク管理体制組織図



● コンプライアンス意識の向上に向けて

コンプライアンス意識調査などの施策を通じて従業員の意識改革に取り組んでいます

カルビーグループは、法令や社会規範の遵守こそ事業活動を支える根幹と考え、2006年に「グループ行動規範」と「グループ行動指針」を制定し、代表取締役社長兼COOを議長とする「コンプライアンス・リスク対策会議」のもと、定期的に施策の点検・見直しを行っています。

具体的にはエシックスカード(グループ行動規範)やコンプライアンスQ&Aのデータ教材化、全管理職層向けの「コンプライアンス通信」を配信するなど、コンプライアンス意識の向上を図っています。

2012年度は、細かな状況を把握できるようにコンプライアンス意識調査を職場の小ユニットで実施しました。



● 内部通報窓口の設置

不正行為を未然に防ぐために社内外に通報窓口を設置しています

カルビーグループでは、行動規範や行動指針に抵触する行為の未然防止や早期発見・解決を図るため、2006年に全従業員からの内部通報・相談の窓口として「倫理ヘルプライン」を社内外に設け運用しています。「倫理ヘルプライン」では、それぞれの通報に対して、通報者が不利益を被ることがないように安心して通報できる体制を整えています。また、社内への周知・説明を図り、有効に活用されるように努めています。

TOPICS

行動規範チャレンジミーティングを開催し、「コンプライアンスの浸透」「風土改革」を強化

カルビーグループでは、コンプライアンス意識を高め、風通しのよい職場の確立を目指して、2012年3月から新たに行動規範チャレンジミーティングを開催しています。その目的は行動規範を理解し、人に伝えられるようにすることと、社内での対話を促進する機会を提供することです。職場の異なるメンバー同士で「ワークショップ」を実施し、ミーティング終了時には、各グループの責任者からそのメンバーに対し、自分が実行していく方策をコミットするようにしています。

2012年度は製造部門を中心に実施しました。2013年度以降も活動を継続し、行動規範に親しみを覚えてもらい、コンプライアンス意識を高める環境づくりに努めていきます。



行動規範チャレンジミーティング

2012年度は、「倫理ヘルプライン」に計40件の通報がありました。

■ 通報受付件数の推移

年度	2010	2011	2012
件数	21件	34件	40件

● リスクマネジメント体制

各事業本部・グループ会社との連携によって推進体制を強化しています

カルビーグループでは、企業を取り巻く多様な経営リスクに対応するため、2007年に「危機管理規程」を制定し、内部統制システムを構築する過程で各事業本部・グループ会社の経営リスクの把握と評価作業を行っています。特に製品の安全性や原材料の調達に関するリスクには、品質保証本部が中心となって予防策を講じるとともに、迅速な対応ができる体制を整えています。

また、年に1回「法令遵守総点検」を各事業本部、関係会社において実施しています。これは、事業運営に関する点検事項を約400項目にわたってチェックするものです。

今後も事前にリスクの芽を摘む未然防止、万一の被害を最小限に抑え、迅速な復旧を図る体制づくりを推進していきます。

● 事業継続計画(BCP)の策定

BCP対応訓練を実施しました

カルビーグループでは、2010年度より「危機管理体制整備のプロジェクト」を立ち上げています。そのなかで、食品製造業としての社会的責任の観点から食品供給に支障が生じないようにするため、毒物混入、不祥事、地震等が発生した

際の行動計画を策定しています。

2012年度は、首都直下型地震による本社機能の停止を想定して、事業所やグループ会社を含めて模擬訓練を実施しました。

今後は、従業員・従業員の家族の生命の安全を最優先とした安否確認体制の再構築、全事業所における防災備蓄品の整備、そのほか被災地域への貢献等についても、一層力を入れて対策を実施していきます。

● インサイダー取引防止

株式課が中心となってインサイダー取引防止の啓発活動を行っています

2012年度は、各事業所にインサイダー取引防止に関する掲示物、説明用資料を作成し、周知徹底を図りました。また、本社での説明会では、インサイダー取引防止だけに限らず、情報管理や株式全般の基礎知識を盛り込むことで、さらにインサイダー取引防止への理解が進むように工夫し、100名を超える従業員が参加しました。

● 知的財産の保護

知的財産管理の強化に努めています

カルビーグループでは、知的財産に関する活動を強化するために、法務部知財管理課で商標・著作権について管理し、世界での会社商標と商品商標の登録による権利保護、類似商標のウォッチングによる権利侵害の早期発見と対処などに取り組んでいます。

また、2012年度は新任商品企画担当者への商標説明と、年3回程度の定期的な社内学習会で商標管理についての説明会を実施し、グループとしての知的財産管理を推進しています。

お客様のために

2012年度の主な成果

- 1 製造記号の印字確認を機械で行う「インターロック」設備の導入で印字不良が激減
- 2 製造班長育成プログラムの実施

品質方針

顧客の立場に立った品質作りを推進し、顧客の信頼と満足を得られる「安全・安心」「安価」で「おいしい」製品の継続的な提供の実現を目指す。

品質保証体制の推進

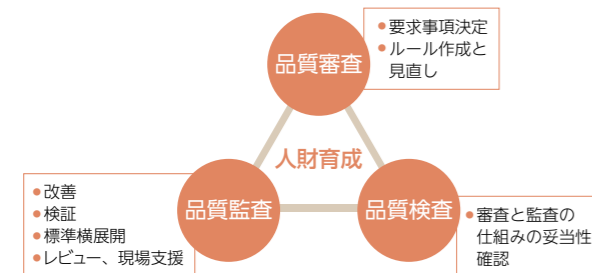
お客様にとって安全で安心できる高品質の製品・サービスを提供していきます

お客様に安全で安心していただける製品を提供することは、食品メーカーの最も基本的な責務です。カルビーでは、品質方針のもと、全社員が常に品質の確保に取り組んでいます。また、健康被害の恐れがあるもの、法令違反のもの、お客様の信頼を失う恐れのあるものなど品質にとって極めて重要な問題を発生させないために、品質保証に関わる社内外の組織や部門のビジネスパートナーとも協働して取り組んでいます。

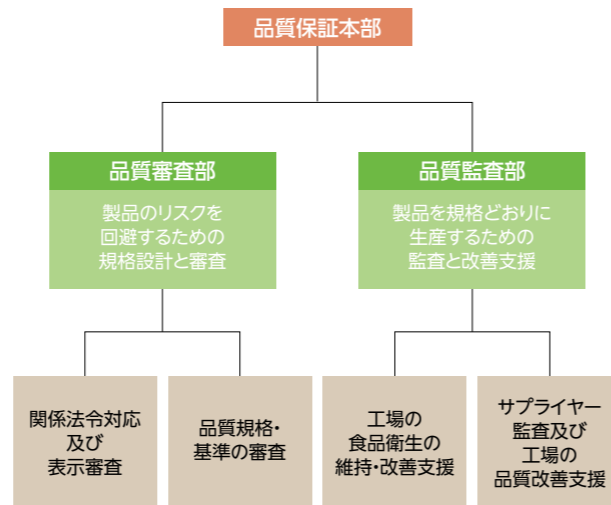
品質保証本部には、品質審査部と品質監査部があり、品質審査部は、品質不適合のリスクを回避するための規格設計と審査を担い、品質監査部は、製品を規格通りに生産するための監査と改善支援を担っています。この二つに加え、工場での検査やお客様の声、官能検査により、審査と監査の仕組みの有効性確認を継続的に行っています。また全工場でAIBの考え方(食品安全管理システム)を取り入れ、安全な製品づくりに努めています。

また2004年には、ISO9001を全社統合認証取得しました。品質に深く関わる関係部署を中心にISOに基づいた活動を行い、品質保証の取り組みの継続的改善と重大不適合の歯止めを行っています。

品質保証の機能と役割分担



品質保証体制



新製品開発時の品質管理体制

開発や調達段階での品質管理に加え、店舗での品質保証の徹底にも努めています

お客様の立場に立った安全・安心な製品を提供するため、新製品開発時や事業拡大に伴う輸入原料・製品の良否判断基準である品質規格と、製造工程管理上の指針となる品質基準を設定し、データベースで管理しています。また設計段階でのミスを出さないよう、開発プロセスやパッケージの表示に対するチェックを品質審査部が中心になって実施しています。

このほかリスクが発生しないように、原材料サプライヤーと共同でアセスメントを実施しています。

また、直接お客様にカルビー製品を販売しているアンテナショップ「カルビープラス」では、店舗での品質保証を徹底するために、店長がすべき項目を明確にしています。さらに「カルビープラス」に対しても、品質保証本部が定期的にアセスメントを実施しています。

堅あげポテトの自主回収に関する対応について

『堅あげポテト 関西だししょうゆ』におきまして、ガラス片混入という事態を発生させ(11月17日発覚)、対象商品を自主回収した件に関しましては、多くのお客様にご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

自主回収にあたっての基本方針

1. 顧客優先 新たな被害者を出さない
2. 情報開示 会社にある情報は隠さず公開する
3. 率先垂範 トラブルから逃げず、トップマネジメントは率先して問題解決にあたる
4. スピード 他の全ての仕事に優先して出荷された商品の回収をはかる
5. 再発防止 再び同様の問題を起さない

再発防止策の実施

今回問題の発生した設備の撤去を全工場で完了しました(11月21日)。また、全工場でライン上のガラス使用箇所の総点検を実施し、点検頻度の見直しを行いました。さらに順次、全工場を対象に本社支援部門の立会いのもと、ガラス等の点検運用状況の確認と指導を進め、現在も再発防止に努めています。

社外告知以降、小売店様や卸店様のご尽力により、速やかに店頭商品を回収させていただきました。

原材料の品質管理

あらゆる角度から品質向上のための取り組みを行っています

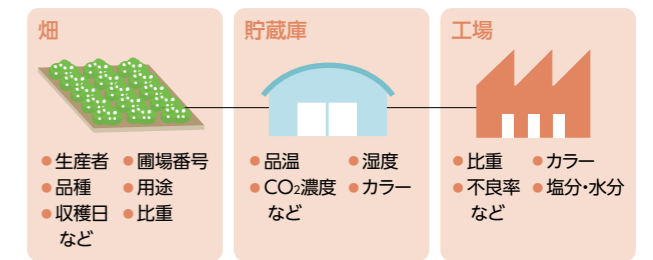
お客様に常に変わらぬ高品質の製品を提供するために、カルビーでは、ポテトチップスの原料であるじゃがいもの品質について畑と貯蔵庫、工場の各工程で決められた項目の検査を行っています。現在は、これら品質履歴や品質検査結果の情報をじゃがいものロット単位でデータベースに入力・集積して一元管理する、独自の品質管理システムを確立し運用しています。この品質管理システムは、「トレーサビリティシステム」の機能も果たし、工場での製造品質等の使用結果はじゃがいも産地へフィードバックされ、その情報を翌年の栽培の改善に活かしています。



じゃがいものコンテナ

固有の情報を記したラベル

畑・貯蔵庫・工場での品質検査項目



TOPICS

研究開発本部がAIBフードセーフティー監査*でSUPERIOR(スーパーリア)の評価を得ました

2012年6月26~27日に研究開発本部生産課が、AIBフードセーフティー監査を受けました。監査は、付帯施設を含む研究開発本部の生産課を対象に実施されました。

その結果、「食品安全のためのメンテナンス」や「清掃活動」など5つのカテゴリの総合評価で、「SUPERIOR(スーパーリア):最優秀基準達成認定証」という評価を得ました。

SUPERIOR(スーパーリア)とは、監査を受けた施設の上位25%以内に与えられます。カルビーは、お客様に一層の安全安心をお届けするために、今後もこのレベルを維持・向上させるように努力していきます。

*AIBフードセーフティー監査
米国製パン研究所による監査





●生産者と連携した品質改善

原料となるじゃがいもに求められる品質は2つあります。1つは、腐敗、傷、打撲、緑化および内部障害などの不良箇所がないこと、もう1つは、ポテトチップスにしたときに明るい色に揚がることです。不良箇所の削減について、カルビーポテトでは、2009年よりじゃがいもを栽培されている生産者の皆さんと「生産者による品質の自主保全活動」を実施してきました。

これは、不良箇所が発生する原因を、すべての契約ほ場から収集した情報に基づき解明し、それに基づいた対策を契約生産者の皆さんと共有し、一人ひとりの生産者自身が実施していく活動です。この活動により、2012年産のじゃがいもの不良箇所の発生は、気象要因により傷、打撲は若干増加しましたが、それ以外の不良については、2008年産との比較で35%の削減となりました。

じゃがいもの成分の大部分はでんぷんです。そのでんぷんはさまざまな理由により糖に変わります。糖の量が多いじゃがいもをポテトチップスにした場合、こげたポテトチップスができます。明るい色に揚がるじゃがいもとは、糖の少ないじゃがいもを示しています。じゃがいも内の糖の量は、気象条件、品種、栽培条件、貯蔵条件に左右されます。現在、品種については、糖が少ないものを生産者の皆さんに栽培していただいています。しかし、その栽培方法、栽培環境および貯蔵方法が違えば、糖の量に差異が生じます。

カルビーポテトでは、糖が少なくなる栽培方法を生産者の皆さんにご提案し、実践していただくとともに、生育したじゃがいもの状態に応じた貯蔵方法を実践し、糖の増加を避け、色上りのよいじゃがいもの供給に努めています。



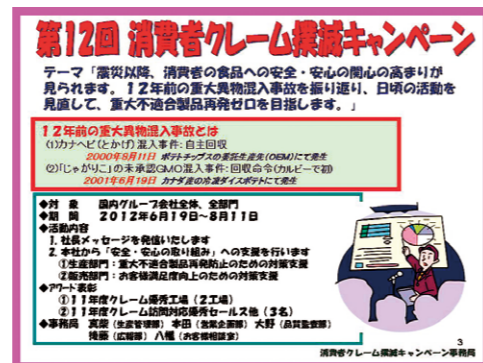
じゃがいも生産者の皆さん

●品質向上へ向けた全社での取り組み

異物混入や印字不良などの防止に取り組む「消費者クレーム撲滅キャンペーン」を2001年度から継続して実施しています。これは2000年8月と2001年6月に発生した異物混入事故を教訓に、安全・安心な商品づくりへの決意を忘れないようにと始めたもので、毎年6月から8月にかけて全社で実施しています。

2012年度は、生産部門では消費者からのご指摘の原因改善と重大不適合の再発防止、販売部門ではご指摘への対応に対するお客様の満足度の向上に取り組まれました。

地道な取り組みを継続しながらお客様の安全・安心への期待に応えられるよう、品質の向上に全社で取り組んでいきます。



●食品安全衛生

新規ライン導入時や定期的にお客様目線で食品安全衛生を実現しています

カルビーは新規商品の開発をテスト販売含め日々チャレンジし、商品を通してお客様に新たなシーン、食感、食材などを提供しています。

当然、新たな設備やオペレーションでの生産チャレンジも始まります。この時に、生産本部と品質保証本部が生産工場の労使と一緒に、労働安全衛生と食品安全衛生を両立するべく、厳しい目で確認を行い、安全が担保されるまで商品を生産出来ない仕組みを構築しています。実際に指摘事項が改善されるまで何度もやり直したり、新たなアイデアが出ることでより安全が担保できるラインになった事例もあります。

また既存のラインも各生産工場では定期的(原則毎月1回)食品安全パトロールを実施しています。



【食品安全パトロールによる指摘事例】
粉砕機(フェザーミル)駆動部にカバーがなく巻き込まれる可能性がある

●品質を守る人材育成

製造班長育成プログラムを実施しています

従業員一人ひとりが品質管理に対する正しい知識と、安全・安心こそが最優先されるという意識を持つことが、品質管理には欠かせないポイントです。

カルビーでは製造工場を対象に、人材育成プランを明確にし、職場管理ができる人材を増やすよう努めています。全社標準の教育プランを策定し、工場ごとの知識・意識のバラつきをなくし、スキルレベルの底上げを狙っています。この教育プランには、製造現場における品質管理に関することも網羅されています。



オシヤでの実施風景

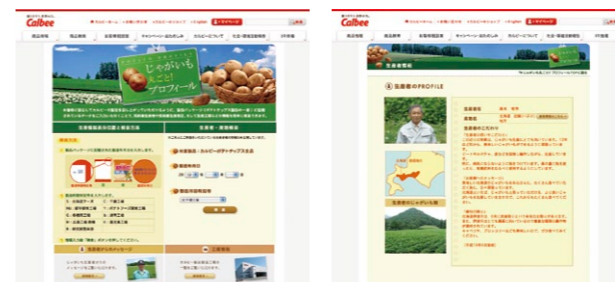
●お客様への情報開示

法令遵守を前提に、適切な表示と情報提供をしています

●原材料における情報開示

主なポテトチップス商品では、商品パッケージに記載されている製造年月日と製造所固有記号をウェブサイト上に入力すると、じゃがいもの生産者や生産地区、そして生産工場がわかる「じゃがいも丸ごと! プロフィール」を公開しています。

また、ウェブサイト上で生産者の声も紹介しており、よりご安心いただけるような情報開示に取り組んでいます。



「じゃがいも丸ごと! プロフィール」

生産者の声

●製造工場における情報開示

食品の安全・安心に対する消費者のニーズはますます高まっており、食品の使用材料や原産地までも考慮して商品が選ばれています。カルビーは1973年に製菓業界として初めて

商品パッケージに製造年月日の印字を開始し、お客様に安心してカルビーの商品を召し上がっていただけるよう、積極的な情報開示の取り組みを進めてきました。現在では賞味期限や製造所固有記号、シリアルナンバー、製造ライン、製造時刻を表記しており、正しい情報が記載されているかを品質審査部が法律に基づき厳密に管理しています。

●印字不良の激減

従来までは目視で印字確認していたものを、機械で判断できるように「インターロック」の設備を導入することで、印字不良が激減しました。「インターロック」とは、日付印字をカメラで識字を行い、適切なものだけを後工程に流す仕組みです。



商品パッケージの表示(表面と裏面)

●食品アレルギーへの対応

アレルゲン対策プロジェクトを中心として、食品アレルギーに関するさまざまな課題に取り組んでいます

カルビーグループでは、食品アレルギーへの配慮を重要な課題の1つと考えています。2006年に、研究開発部門、品質保証部門、生産管理部門およびお客様相談室など、社内の関連部署を集めて「アレルゲン対策プロジェクト」を発足させました。モデル工場を設定して、アレルゲンリスクを減らす清掃方法や設備改善などを研究し、アレルゲン対策を含めた「清掃基準書」を作成しました。この基準書に沿った清掃を、2007年から全国工場で行っています。基準書通りに清掃ができているか確認したり、作業教育も実施しています。

さらに、厚生労働省が表示を定めた特定原材料7品目はもちろん、これに準ずる18品目についてもすべてパッケージに表示しており、特定原材料7品目のコンタミネーション(混入)についても注意喚起表示を行っています。また、お客様一人ひとりの具体的なアレルギーに関する質問などを個別に受け付ける体制も整えています。

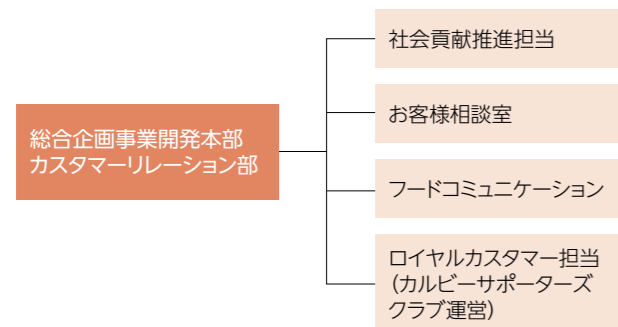
※2009年9月1日より、厚生労働省で行っていた食品表示等に関する業務は消費者庁へ移管されました。



● お客様本位の経営のために

カルビーは、お客様本位の経営を実現するためにカスタマーリレーション部の体制を変革し、よりお客様との接点を増やす取り組みを続けています

■ カスタマーリレーション部組織



お客様相談室活動方針

お客様本位の経営に貢献する

カルビーの事業活動の考え方、活動の仕方をお客様本位の活動とするため、顧客接点の充実を図り、社員の経営理念の理解を深めるように情報を発信し続ける

- 1. ご指摘対応強化
- 2. ご意見、ご要望の真因追究
- 3. お客様評価の向上
- 4. 対応支援活動

● 全件対応のお客様相談室

お客様一人ひとりの声を何よりも大切にしお客様満足度の向上に努めています

● お客様の声の尊重

カルビーでは『お客様本位の経営に貢献する』というスローガンのもと、お客様との接点をより充実させる取り組みを展開しています。主に①ご指摘事項の対応強化 ②ご意見、ご要望の真因追究 ③お客様評価の向上 ④対応支援活動を柱に、お客様満足度の向上を目指し取り組んでいます。

その取り組みの一つとして、全国7地域に「お客様対応窓口」を設置しています。お客様のご意見、ご指摘、ご要望、ご質問を重要な経営資源ととらえ、お客様の声を社内で共有するとともに、ご指摘に関しては迅速に対応し、必要があれば直接お伺いし、ご説明させていただいています。消費者との双方向コミュニケーションを実践し、信頼関係を構築することで、さら

なるカルビーファンになっていただけるよう、誠心誠意対応しています。

また、各地域に配属されたお客様相談室長に権限を持たせ、地域のすべてのお客様からのご要望に対応しています。

ご指摘事項により、弊社にマイナスの感情を抱かれてしまったお客様に対しても、「感動の対応」を目指し、カルビー製品を変わらずご愛顧いただけるよう、取り組んでいきます。



お客様相談室(本社)

ご指摘事項により、弊社にマイナスの感情を抱かれてしまったお客様に対しても、「感動の対応」を目指し、カルビー製品を変わらずご愛顧いただけるよう、取り組んでいきます。

● 電話モニタリング研修の実施

お客様の声を実際に聞いて、その重要性を知るために、一般の従業員が相談窓口立つ「お客様の声 体験電話対応研修」を行っています。2012年度は、営業担当者や商品開発担当者が自ら率先して研修に参加しました。

今後も全従業員がこの研修を通して、お客様の声を直接聞くことで、お客様満足とは何か、これからのカルビーに何が必要かを感じ、それが経営理念のより深い理解につながることを目指していきます。

TOPICS

消費者庁職員の方が
カルビーのお客様相談窓口研修を体験

お客様相談室ではACAP(消費者関連専門家会議)の要請で、消費者庁職員の方の研修を受け入れています。消費者の声を実際に聞く機会がない政府の職員が、お客様の声を聞き考えることの必要性から、その第一号としてカルビーに研修に来られたのがきっかけです。

「普段、一般の方とお話する機会があまりないなか、カルビーのお客様相談窓口の研修を受講することで、自分の電話での話し方や、気をつけるべきポイント等、気づきがたくさんありました。また、質問される内容に対応したQ&A集も非常に役に立ちました。本日電話対応をして、消費者はカルビーに期待を込めて問い合わせをしてくるのだということを感じました。消費者庁に寄せられる声も、私たち行政に対しての期待が込められた声なのではないかと思ひ、今後のために大変よい経験となりました」と感想を述べていただきました。



● お客様の声を社内で共有する仕組み

お客様相談室に寄せられるお客様の声を社内で共有するために、お客様相談室の週報を全従業員に配信しています。

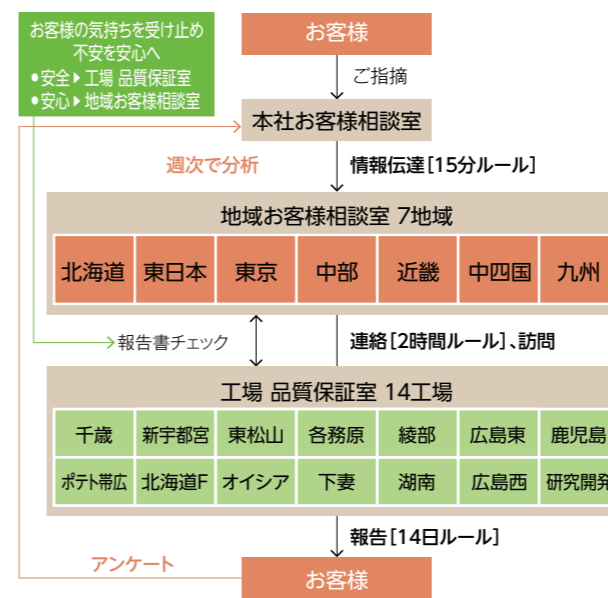
お客様からのご要望に関しては、週1回開催されるVOC[※]ミーティングにおいて、課題化できるかどうかを検討し、課題化が可能なものに関しては全社を挙げてのプロジェクトとして取り組みます。また、重大事故につながる可能性がある深刻なご指摘に関しては、品質保証本部が主体となり、全国の品質責任者を集めて、その対応にあたっています。

また、お客様に提出する報告書に関しても、全工場の責任者に回され、対応に間違いがないか、どのような対応を取ったのかを共有し、全工場・部署にて改善を図っています。

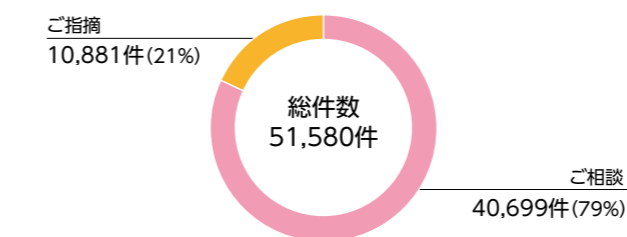
今後はVOCに対する関係部署の改善を、速やかに実行していけるよう努力していきます。

※VOC:Voice of Customer

■ ご指摘対応フロー



■ お客様からの相談件数別内訳 2012年4月1日～2013年3月31日



● ご指摘への対応評価

ご指摘をいただいたお客様には、ご指摘内容の原因を究明した報告書を実際にお持ちし、説明に伺っています。これはお客様からいただいた疑問に対して説明のつかないグレーゾーンについて、取り組みなどをきちんと説明することが大切であると認識しているからです。ご指摘対応後のお客様アンケートの中でも「今まで以上に買う」という評価をされたお客様は、弊社の取り組みを納得していただけたと考えています。

2012年度10,881件のご指摘のうち、アンケート回収率は28%の3,016件で、さらにそのうち14%の425件が、「今まで以上に買う」という評価でした。

■ 「今まで以上に買う」件数の推移

年度	2009	2010	2011	2012
件数	184	391	372	425
回収率(%)	30.2	29.9	26.2	28.0

● お客様のニーズを商品開発・サービスに

お客様の声を反映した商品開発や改善でカルビーファンを増やしていきます

商品作りの中でもっとも重視しているのが「お客様の声」です。お客様相談室にお寄せいただく声や、発売前の商品のコンセプトや試作品を評価していただくモニター調査のご意見を、商品作りに反映させています。収集したお客様や商品に関する情報は関係部門に速やかに伝えることで、商品・サービスの開発・改善などにつなげています。

既存商品については、そのブランドのイメージや特長、世界観を守りながら、お客様の高齢化や健康志向の高まりを視野に入れて「今カルビーに求められている商品」を追求しています。



お客様からご好評の声が多くコンビニエンスストア限定で定番化した「じゃがりこたこバター」



ご要望が多かった小袋商品を「カルビーオンラインショップ」で詰め合わせにして販売開始しました



お取引先様のために

2012年度の主な成果

- 1 新規のお取引先様に対して、購買部による審査と品質保証本部による監査の体制を新たに構築
- 2 各工場の購買担当者向けに下請法遵守のための教育を継続して実施
- 3 ベストパートナー賞として、お取引先様3社を表彰

公平かつ公正な取引の徹底

信頼関係の向上に努め、互いに価値を創出できる「共利共盛」の関係を目指します

カルビーグループでは、お取引先様との公平かつ公正な関係を構築することをグループ行動規範に明記するとともに、「カルビー購買管理規程」を2004年に制定し、適正・円滑な調達を行うことを明文化しています。また、「購買基本方針」と「取引ガイドライン」のもと、お取引先様の評価・選定ならびに取引の実施に努め、お取引先様とともに、社会的責任を果たすため、協働して安定供給や、安全・安心な商品の提供に向けて取り組んでいます。

また、お取引先様にはカルビーの購買規程が明記された取引契約書をお渡しし、規程を満たし、その内容にご同意いただいた企業様とのみ取引契約を結んでいます。2012年度ではさらに、購買部による審査と品質保証部による監査というプロセスを明確なルールとして設定しました。これは国内、海外問わず同条件で要請していることであり、その条件を満たせば、海外の企業でもオープンかつ積極的に新規参入できる機会を設けています。

CSRに配慮した取引の推進

カルビーグループでは、品質向上や安全・安心を確保するためにサプライチェーン全体での対応を進めています。購買取引においては企業理念とCSR活動の考え方を取り入れて、コンプライアンス、品質・安全性、環境保全、情報セキュリティ、公正取引・倫理、労働安全衛生、人権に配慮した購買活動を進めています。

また、お取引先様に求めるCSRへの配慮が、それぞれの主幹部署ごとの解釈によってバラつきがあったため、改めてすべてのお取引先様と取引契約書を交わし、統一した規格での判

断をしています。この規格に同意いただけない企業様に関しては取引契約を解消します。今後も統一した規格をもとにルールの徹底遵守に取り組んでいきます。

下請法遵守体制の強化

カルビーグループでは、下請代金支払遅延等防止法(下請法)遵守体制の一層の強化を図るため、公正取引委員会が全国で開催している講習会への参加を呼びかけるなどして、各部門への教育・指導等を実施しています。

各工場にもカルビーグループの購買責任者が直接出向き、担当者に向けての教育を実施しています。新しく施行・改定される法律を考慮し、リアルタイムで教育することをこころがけ、また、知らずに行っていたことが法律に抵触していることがないよう、随時研修を実施しています。

購買基本方針

- 1 Calbeeは、日々の購買取引の決定、ならびに新規取引先の選定については、品質、価格、安定供給の視点、エコならびに環境保全など合理的な方針に基づいて実施します。
- 2 Calbeeは、購買取引において特定の取引先に過度に集中することのないよう、また特定の取引先がCalbeeに対し過度に依存することがないように、適正購入量を保ち、複数の取引先から購入するよう努めます。
- 3 Calbeeは、取引ガイドラインに策定された基準に従い、合理的な方針に基づき、お取引先を選定し、公正な選定のため、購買部門はほかの部門から独立し、客観的に選定評価を実施します。
- 4 Calbeeは原則として、複数の取引先から相見積もりを取得し、競争の確保と公正な取引先選定を実施します。
- 5 Calbeeは、入札または相見積もり等を行った場合、取引先に選定されなかった企業に対し、要請があれば、可能な範囲でその理由を明示します。
- 6 Calbeeは、継続的な取引は基本取引契約書を締結し、契約に基づき実施します。その他単発的な取引等についても、原則として都度文書による購買契約に基づき取引を実施します。
- 7 Calbeeは、取引先に対する当社製品の販売を直接の目的とする取引は行いません。
- 8 Calbeeは、新規取引先の参入を広く海外にも求め、オープンかつ積極的にその機会を設けていきます。

お客様との双方向コミュニケーション

お客様に合わせたさまざまな接点をつくっています

ウェブサイト上のコンテンツで、お客様とのコミュニケーションを深めています。

例えば登録制コンテンツ「マイページ」(会員数:2013年3月末現在約40万人)は、カルビーのさまざまなサービスを案内する窓口ページとして下記のサービスをご用意しています。



- 1 カルビー情報のお届け
- 2 キャンペーン、プレゼントの簡単応募やマイページ限定プレゼント
- 3 オンラインショップでの楽々お買い物
- 4 マイページ限定コンテンツのご利用
- 5 マイページポイントでサイト利用をもっと楽しく!

なかでも、マイページ限定コンテンツ内に2つのコミュニティサイトを設置し、コミュニケーションを図っています。

じゃがりこファンによるウェブサイト上の学校「それいけ!じゃがり校」

「それいけ!じゃがり校」は、じゃがりこを愛する人たちが集まったファンサイトです。難関の入学試験に合格した“生徒”たちが、新商品を開発したり、カルビーの担当者と実際に触れ合う「リアル生徒会」を開くなど、双方向コミュニケーションを図っています。



じゃがり校生のアイデアから生まれた「じゃがりこホタテ醤油バター」。発売を記念した「じゃがり校新聞第5号」は、じゃがりこサイト内の「それいけ!じゃがり校オープンキャンパス」に掲載されています

カルビーホームページ「それいけ!じゃがり校」

お客様とカルビーがつながる「カルビーサポーターズクラブ」を運営

カルビーサポーターズクラブは2004年12月の設立から、カルビーグループビジョンの“顧客に愛される会社になる”を担い、具現化するクラブとして活動しています。



2007年から開始の自宅栽培体験「じゃがいも見守り隊」

ウェブサイト上のコミュニケーションにとどまらず、契約農家での収穫体験「じゃがいも掘り」、ご自宅での栽培体験「じゃがいも見守り隊」、工場見学「カルサポDAY」、商品を周囲の方にすすめていただく「オススメ隊」や「カルサポインタビュー」など実際にご参加いただ

けるさまざまなイベントとプログラムを実施しています。

2012年度の「オススメ隊」では、会員さんの積極的な口コミで1万人以上の方へカルビー商品をプロモーションいただけました。

会員さんとの共創で人気プログラムに成長した「じゃがいも見守り隊」は、2012年度のスナックスクールでも横展開し、お子さまたちの栽培報告を一緒に応援しています。

知る 体験 語る
カルビーを知る、「体験する」「語る」



お客様のお声をさくカルサポインタビュー



カルビー契約農場での収穫体験ではお客様と生産者、企業がつながりました

カルビーアンテナショップ「カルビープラス」

「商品やサービスなどを通して、“一歩進んだ”カルビーを楽しんでいただき、グローバルなカルビーファンを創造する」をコンセプトに、「カルビープラス」を展開しています。直接お客様の声を聞ける店舗販売は、カルビーにとって貴重な経営資源です。今後お客様とのコミュニケーション力を向上させ、さらなるカルビーの進化につなげていきます。

- 店舗一覧
- 新千歳空港店 2Fアンテナショップ 4Fショールーム
 - 原宿竹下通り店 東京駅店(東京おかしランド内) 2012年4月14日OPEN
 - ダイバーシティ東京プラザ店 2012年4月19日OPEN
 - 沖縄国際通り店 2012年8月30日OPEN
 - 東京ソラマチ店 2013年5月21日OPEN



沖縄国際通り店



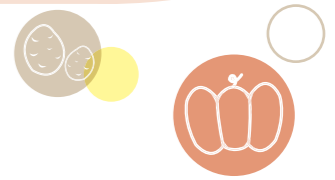
東京駅店

揚げたてのポテトチップス



ポテリこ





品質向上に向けたお取引先様との連携強化

サプライチェーン全体で安全・安心で
適正な品質の製品を
継続的に提供することを目指しています

カルビーグループでは、事業活動に必要な原料や資材を契約農家をはじめとする多数のサプライヤー様から購入するほか、商品の販売にあたっては全国の流通・小売事業者様に協力を得ています。事業活動の目的を達成するためには、サプライチェーンを構成するお取引先様との連携は欠かせません。

コスト・リダクション&イノベーションへの取り組み

カルビーグループは、経営の基本方針として「コスト・リダクション」と「イノベーション」の2つを成長の二本柱とし、あらゆる面でこの実現を目指しています。お取引先様と協力し、原料に汎用性を持たせ、無駄の削減に取り組みました。

これは、どうしても発生してしまうロスや、余剰在庫を減らし、コストを削減することを目指しており、お取引先様との連携がなくては成り立ちません。この取り組みは、いかに無理や無駄をなくし、サービスを充実させることで、双方のコスト・リダクションを実現していけるかが重要になります。

パートナーシップミーティングの実施

カルビーグループでは、日常のお取引のなかでサプライヤー様との情報交換や意見交換の機会を積極的に設けることで相互信頼を深めています。サプライヤー様への要望がサプライヤー様にとってもイノベーションになることを目指しています。

より一層のコスト・リダクション&イノベーションを協働推進していく上での、よりよいパートナーシップの構築に向けた相互理解の場の提供を目的として、毎年「パートナーシップミーティング」を開催し、カルビーグループとお取引のあるメーカー様や商社様などにお集まりいただいています。ここではカルビーの経営方針をはじめ、2010年に定めた購買方針やガイドラインの説明、お取引先様と協働実現したコスト・リダクション事例の報告などを行っています。

2012年度は原材料購買のお取引先様だけでなく一般購買、システムのサプライヤー様、設備関係のサプライヤー様までその規模を拡大し、91社174名のお取引先様にご参加いただきました。



2012年度カルビー
パートナーシップミーティング

お取引先様専用ホットラインの設置

カルビーグループは「お取引先様専用ホットライン」を設置し、カルビーグループが原料や資材を調達しているお取引先様からの通報を受け付けています。カルビーグループの従業員は、購買方針・行動規範に則りお取引先様との関係構築に努めています。万が一、優越性、地位を濫用した疑いや行いがあつた場合には、その担当者とは別のルートでトップに伝わるようにしています。それを受け、是正措置・予防措置に努めるようにしています。

また、通報者が特定され不利な立場に立たされることのないよう、倫理・リスク管理部が窓口となり、情報を取り扱っています。

責任を果たすための取り組み

サプライヤー様と協力し、
安定供給の仕組みを構築します

食品製造業として、安定供給の責任を果たすために、緊急事態発生時におけるサプライヤー様との協力体制の構築に取り組んでいます。

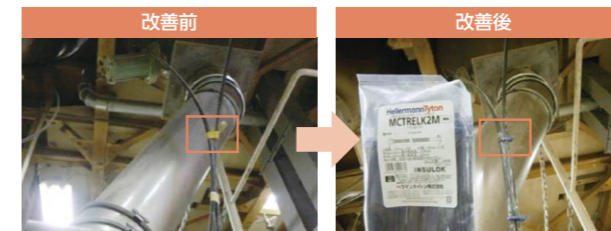
また、主要な原材料においてお取引先様が1社しかないものに関しては、現状のお取引先様とは離れた地域の別のお取引先様にも、緊急時にご協力をいただける体制を整えています。その選定においても、当社の規格書の条件を満たしていることが条件となっています。

お取引先様評価の充実

カルビーでは、2002年にお取引先様の評価基準をまとめた「アセスメント（評価）マニュアル」を定め、以後毎年この基準のもとお取引先様の評価を実施しています。この評価は、原料購売部門の担当者がお取引先様のもとへ赴き、原料規格に合った出荷や衛生管理、異物混入防止策などの実行状況などを3段階評価するもので、評価結果はお取引先様へ通知するとともに、必要に応じて改善をお願いしています。10年以上にわたり評価を繰り返し実施してきたことで、お取引先様の意識も高まり、評価結果も年々向上しています。

2012年度は、品質的な監査とサプライヤー様選定の審査を品質保証本部、購買部それぞれに振り分けて行ったことで、より精度の高いアセスメントが実現できました。

改善事例（製粉会社様）



ビニールテープによる配線コードの結束方法は、製造ラインに落下した場合に異物として混入するリスクがありました
金属探知機にて検知可能な結束バンドへ更新。万が一製造ラインに落下した場合にも排除可能となりました

原料の安定供給に向けた取り組み

ポテトチップス用のじゃがいも原料は畑で生産されるため、その年の気象条件の影響により生産量や品質が変わります。これまででも、じゃがいもの豊作や不作により、原料の過不足が生じました。じゃがいも原料を安定的に確保するために、2011年より北海道の契約農場において、生産者の皆様と施肥の改善に取り組んでいます。施肥とは、人間で例えると食事にあたります。植物が健全に育つように、適正な施肥を施し、気象の影響を可能な限り少なくする取り組みです。

この活動のポイントは、①さまざまな特徴を持つ畑一つひとつに適正な施肥を行う、②年によって異なる気象に対応した施肥を行う、③植物の生長を観察し、それに必要と考えら

れる施肥を行う、の3つが挙げられます。この取り組みには、スコットランド農業大学 (SAC) の知見と指導を得て、科学的な見地のもと実施しています。

一方、近年、じゃがいもの主産地の北海道では、じゃがいもの作付面積が減少している傾向が見られます。これは、高齢化・労働者不足という農業の構造的な問題と、じゃがいもがほかの主要な作物と比較して労働力を要することが相まった結果と考えられます。この問題については、「C-Sup」などのコントラクター収穫の実施と、一般的な生産者の皆様への対応として、収穫中の収穫機上での選別の簡素化による収穫作業の省力化によって解決を図っています。

従来のじゃがいもの収穫作業は、収穫機上で生産者の皆様が不良箇所のあるじゃがいもを人力で除く選別を実施し、出荷されていましたが、この選別の工程に多大な労働力と時間を要していました。後者の取り組みは、生産者の皆様が畑で実施していた選別作業を簡素化し、代わってカルビーポテトが貯蔵庫で機械的に選別を実施するものです。2010年より実施し、生産者の皆様からの支持を得つつあり、今後、この方式による収穫を拡大していく予定です。

TOPICS

帯広畜産大学との包括連携協定の締結

長期的にじゃがいもを安定的に調達するためには、国内最大の産地である北海道の農業発展が不可欠です。

カルビーは主要なじゃがいも産地の1つである北海道十勝に立地する帯広畜産大学と包括連携協定を2012年10月2日に締結しました。

この包括連携協定に基づき、インターンシップの受け入れ等を推進することで、北海道農業で活躍する人材の育成に貢献するとともに、じゃがいもの育種・栽培・貯蔵・加工等、各工程に関わるさまざまな共同研究を推進し、北海道農業の発展に貢献していきます。

特に育種に関しては、2013年4月1日、寄附講座「バレイショ遺伝資源開発学講座」を帯広畜産大学様、北海道馬鈴しょ協議会様、キューピー(株)様、ケンコーマヨネーズ(株)様等とともに開設しました。この講座での育種に関する研究成果が広く活用され、有用なじゃがいも新品種が誕生することで、農業をはじめとする馬鈴薯産業の発展やじゃがいもの安定調達につながることを期待されます。



包括連携協定調印式

表彰者のコメント

思い込みを打破し、よりおいしい物を追求

弊社では、原料を加工する際に多くの加熱工程がありますが、加熱工程が多いほど、原料素材自体の風味が損なわれるという欠点がありました。

それに対し、カルビー様と加熱工程を少しでも減らす取り組みを「協働」で進めさせていただき、今まで減らすことができないと思いついていた工程を減らすことができました。

その結果、よりおいしい素材でありながら、さらにローコストでご提供させていただくことができるようになりました。

この取り組みについて、「2012年度カルビーパートナーシップミーティング」にてベストパートナー賞を光栄にもいただくことができました。弊社関係者一同喜びとともに、今後もこの経験を活かし、思い込みを囚われず、よりおいしい商品の提供を目指してまいります。



六甲バター株式会社
業務用営業第二部
東京販売チーム チームリーダー
城 耕治

従業員のために

2012年度の主な成果

- 1 「自立的に成長し成果を出し続ける人・組織」を目指して新人事プロジェクトを発足
- 2 全社衛生管理者会議を実施し、衛生管理者の役割と責任を明確化
- 3 全社安全衛生パトロールを通じて、過去3年間の重大災害(休業)が発生した工場の対策の有効性を確認

人を生かす組織・制度作り

「自立的に成長し成果を出し続ける人・組織」となることを目指しています

カルビーグループは、自社の人材を育てていくことが企業の重要な役割であると認識しています。そのため、中長期ビジョンにおいて「カルビーグループのすべての従業員が、心から誇りをもって働ける職場をめざします。」という目標を掲げ、その達成に取り組んでいます。

組織が成長し、企業間競争に勝ち残っていくためには、従業員一人ひとりが個性を発揮し力を合わせる事が大切です。2012年、カルビーグループでは人事担当者が一堂に会し、カルビーグループの人事方針を決定する「新人事プロジェクト」を発足しました。自立的に成長し、成果を出し続ける人・組織をつくるための考え方を5つの要素に集約し、自らチャレンジする人を積極的に支援する方針です。

■ カルビーグループの目指す姿

自立的に成長し成果を出し続ける人・組織

- 1 ライフキャリアプラン オープンで適正な任免・配置
- 2 採用・育成 自らチャレンジする人を積極支援
- 3 評価・報酬 評価・処遇は厳しく公正に
- 4 福利厚生 健康と感謝は公平に
- 5 カルチャー ライフワークバランス

● 従業員のキャリア形成支援

カルビーグループでは新たに人材開発部を立ち上げ、従業員が各々の目標を達成し、企業の社会的責任を果たすためにも、個々の役割・成長に合わせた多様なキャリア開発プランを整備し、リーダーとなる人材の育成に力を入れています。

2012年12月から新たに「キャリアチャレンジ」制度を策定

し、従業員自らが希望する役職、部署へ自分の成果をアピールし、次のキャリアを勝ち取る役職チャレンジや手挙げ式の海外研修チャレンジなど、さまざまなチャレンジの場を設けました。

また、キャリアプランを自分で描き、上司に面談を通じて理解してもらうことで、必要な教育・支援を行うライフキャリア面談も実施しています。

● 安全衛生管理

従業員が安全に健康的に働ける職場環境の維持に努めています

カルビーでは法律に基づいた「全社安全衛生委員会」を定期的に開催し、労働災害の防止や職場環境の改善、心身の健康管理などについても産業医を交えて話し合い、各種施策の決定・実行を行っています。各事業所でリスクアセスメントの継続・普及を行い、災害リスク低減のための取り組みを行いました。

2012年度は全社衛生管理者会議の開催や年2回の安全衛生パトロールを実施しました。安全衛生パトロールでは、①過去3カ年の重大災害(休業)発生工場の対策の有効性の確認、②他工場の管理状況の確認、③標準形の確定と全社横展開などに取り組みしました。

そのほか、従業員に対し、定期健康診断の実施と社外機関と契約し、24時間体制のメンタルヘルス相談窓口も設けています。



安全衛生パトロール

全社安全衛生委員会

TOPICS

カルビーグループの業績や成長に貢献した従業員を賞賛する! 『Calbee Award』を開催

カルビーグループでは、毎年年度の業績や会社の成長に貢献した従業員を表彰し、賞賛する「Calbee Award」を実施しています。

2012年度は復興支援の願いも込め、福島県郡山市で開催しました。「Calbee Award」の目的は、①Celebration(成果を上げた従業員に対する最大限の賞賛)、②Education(優秀活動事例の学習と共有)、③Motivation(次年度も成果を上げたい、表彰されたいと思わせる動機づけ)の3点です。

第1部「成果報告会」、第2部「表彰パーティー」の二部構成で行い、成果報告会では、生産部門と営業・スタッフ部門に分かれて報告を行い、今後のカルビーグループの発展につながる事例が多数発表されました。

Calbee Awardを通じて、カルビーグループ従業員のモチベーション向上と、High-Performer、High-Rewardの企業風土の醸成を図り、個人やチームの貢献が会社の成長につながることを期待しています。



優秀賞受賞者



成果報告会

2012年度安全衛生活動計画

活動方針

- 1 安全な職場環境をつくる
 - 過去重大労働災害の再発防止策の有効性確認と防止策横展開
 - リスクアセスメントの定着
- 2 安全に対する意識向上
 - KYT※、ヒヤリハットの推進、標準化
 - 従業員教育の充実化
 - 危険、予知、トレーニング
- 3 労働衛生の環境づくり
 - 職場環境改善
 - 衛生管理者業務の標準化

【全工場共通課題】=過去発生した労災の再発防止

- 1 リスクアセスメントの定着
 - 再発防止策の有効性確認
 - 安全パトロールによる予防
- 2 各工場重点課題取り組み1項目実施

■ 労働災害発生状況(件)

年度	2009	2010	2011	2012
不労災害	43	48	52	60
休業災害	22	20	15	8
度数率	9.75	11.65	10.93	9.87

※集計対象組織:カルビー、スナックフード・サービス、カルビーポテト(2011年よりジャパンフritoレーキむ)

■ 業務上労働災害の報告フロー(事業部内と全社安全衛生事務局)

内容	当日	3日以内	1ヵ月以内	6ヵ月以内
発生状況の概略	第一報告			
発生状況の詳細		A表作成		
発生原因の分析と対策案			B表作成	
対策の有効性確認			全社安全衛生事務局による現場確認	B表確認

● 多様な人材の活躍支援

多様な人材がそれぞれの能力を最大限に発揮し、安心してイキイキと働ける職場作りに取り組んでいます

多様な人材がそれぞれの能力を最大限に発揮しながら、安心してイキイキと働ける職場作りに取り組んでいます。

また、積極的に外国人を採用しており、2012年度は10名の外国人の新卒採用を行いました。グローバル企業として、さまざまな国籍の従業員が働ける職場を目指しています。

■ 外国人雇用者数の推移(名)

年度	2009	2010	2011	2012
雇用者	395	406	362	384

※集計対象組織:国内カルビーグループ会社

● 定年退職者の再雇用制度

定年を迎えた従業員を1年契約で65歳まで再雇用する制度を整えています。制度の適用対象は、満60歳到達時に①再雇用を希望し、体力・能力と働く意欲がある、②職場から再雇用の要請があるという2つの条件に該当する従業員としています。

■ 定年退職者再雇用の推移(名)

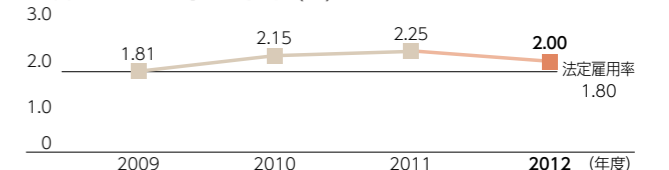
年度	2009	2010	2011	2012
再雇用者	18	18	20	14

※集計対象組織:カルビー

● 障がい者雇用の推進

カルビーグループでは障がい者が働きやすい職場を目標に、障がい者の雇用拡大に向けた取り組みを行っています。障がい者の能力に合わせた仕事、施設や設備、勤務場所などに考慮し、最大限能力が発揮できるよう働きやすい職場作りに取り組んでいます。2012年度の障がい者の雇用率は、法定雇用率を上回る、2.0%となっています。

■ 障がい者雇用率の推移(%)



※集計対象組織:カルビー、カルビーイートーフ



TOPICS

カルビー・イートークの取り組み

カルビーの特約子会社であるカルビー・イートーク株式会社は、重度障がい者多数雇用事業所で、メンバー26名のうち15名が障がい者です。2012年度は、新たに3つの業務をスタートしました。

- ① 湖西市観光協会が委託経営する「こなんマルシェ」にて、じゃがりこ関西限定たこ焼き味の委託販売
- ② 見学者向けにお土産・カルビーグッズの販売
 - ①②の取り組みは、生産品の販売や接客を通して、メンバーの意識や社会性の向上に役立てよう開始しました。
- ③ カルビーグループの名刺印刷
カルビー・イートークのメンバーが操作可能なように、専用のソフトと名刺用プリンターを導入し2012年10月より開始。今ではメンバー1人で作成することができるようになりました。



販売風景

名刺作成業務

オイスアの取り組み

オイスアでは社会就労センターいぶき(栃木県)から障がい者の方と指導者の方を迎え、製造ラインの業務に従事していただいています。障がい者自立支援法に基づいた企業内授産という施設外就労を実施しているものです。

ライフワークバランスへの取り組み

ライフワークバランスに配慮した支援や制度の拡充に努めています

従業員が家庭と仕事の両立を図れるよう、育児休業制度や介護休業制度などの各種両立支援策を制定しています。従業員が個々のライフイベントに左右されず活躍できる環境を整えることで、長期にわたって働き続けられる企業を目指しています。

残業削減に向けての取り組みに加え、人事異動に関しては、従業員の意思を尊重する体制を取っており、今後も少子高齢化などの時代の流れに応じた人事制度による支援に取り組むことで、会社の成長と個人の成長を促します。

■ 育児・介護に関する主な制度(2013年3月現在)

制度	適用期間および内容
配偶者出産時休暇	配偶者出産の6週間前～出産後8週間以内に連続または分割で5日(有給)
育児休業	子が2歳になる誕生日前日まで
育児短時間勤務	子が小学3年生修了時まで(5時間以上/日)
介護休業	要介護対象者1名につき連続1年以内で会社が認めた期間
介護短時間勤務	要介護対象者1名につき1年以内(6時間以上/日)

■ 育児・介護休業取得者数の推移(名)

年度	2009	2010	2011	2012
取得者	20	33	28	36

※集計対象組織:カルビー

■ 女性管理職(本部長、部長、課長)比率(%)

年度	2009	2010	2011	2012
女性比率	5.9	7.9	10.2	12.1

※集計対象組織:カルビー

ダイバーシティの推進

ダイバーシティの実現の第一歩として「女性の活躍推進」に取り組んでいます

カルビーでは2010年度に「ダイバーシティ委員会」を設置し、従業員の約半数にのぼる「女性」の活躍推進に着目し、さまざまな活動を通して社内の意識改革を行ってまいりました。

2012年度は女性のキャリア支援を目的とした「キャリア支援部会」、工場での啓発活動を中心に行う「工場部会」、シニア世代の活躍を支援する「セカンドドリーム部会」という3つの部会で活動を行いました。

このような取り組みの一例として成果を上げているものに新宇都宮工場の事例があります。カルビーでは結婚・出産後の定着率が上がり時短勤務者が増えてまいりましたが、時間内に終わる仕事がないということが問題となっていました。この対策として、時短勤務の女性従業員が自ら考え、ライン製造できない詰め合わせ商品をつくることを経営委員会に提案して実現し、売り上げも好調で全国展開に向け準備をしています。

カルビーダイバーシティ宣言

掘りだそう、多様性。育てよう、私と **Calbee**。
互いの価値観を認めあい、最大限に活かしあう。

多様性こそ **Calbee** 成長のチカラ。
「ライフ」も「ワーク」もやめられない、とまらない。

カルビーグループダイバーシティのビジョン

どの職場でも、いろんな人が「イキイキ」と働いている
育児・介護などの制約がある人も活躍できる制度・風土
コミュニケーションが活発
一人ひとりに自身とやる気とチャレンジ精神
ライフもワークも充実
ワクワクするやりがいのある毎日

一人ひとりの成長 ⇒ カルビーの成長

TOPICS

2012年度のダイバーシティ委員会の取り組み

ダイバーシティ委員会では、各地でさまざまな活動を通して、まず全従業員が、ダイバーシティについて知り、その重要性に気づき、自ら実践できる環境づくりに努めています。

カルビーグループの持続的発展のためには、一人ひとりが成長し、その力を最大限に活かすことが必要です。いわば「総力戦!」で挑んでいます。



2012年度ダイバーシティ委員会メンバー



**ダイバーシティ活動推進
ロゴマーク**
どんな小さな場面でも、私たち全員が自ら、「ハイッ!」と手を挙げられるようになれば多様性は加速する、という思いが込められています。

活動を一部ご紹介

新宇都宮工場てづくりチーム結成

子育てや介護を抱える時短勤務者が増加するなか、自分たちの活躍の場を自ら考え、自ら創造しよう!と立ち上がり、周囲の協力も得て、時短勤務者だけで構成するチームを2012年6月に結成しました。皆イキイキとアソート品などの生産をしています。



てづくりチームによるアソート品の生産

ダイバーシティ・フォーラム

2012年11月に第3回目のフォーラムを開催しました。全国から手挙げで約350名(男:女=1:2)の従業員が集まり、講演やワークを通じて、多くの気づきを得ました。



ディスカッションタイム



松本会長によるメッセージ

「明日へつなげる自分のチカラ発見」講座

2回目となる“女性のための”キャリア支援講座を2012年9月に開催しました。自分を見つめ直し、将来のプランを描き、どんなライフステージにあっても、一人ひとりが“プロ”として自分の仕事にイキイキと取り組み、成長し、人生をワクワクさせるためのきっかけづくりの場です。有意義な時間を共有しました。



カルビーグループ各社から手挙げで参加

ダイバーシティ月間特別座談会・ 晃さんとダイバーシティについて語ろう

2012年11月に会長の松本と女性従業員による座談会を実施しました。ダイバーシティについて日頃から感じていることを、直接トップに聞くという新しい企画です。参加者からは「ダイバーシティ推進こそが会社をよくする」「モチベーションが上がった」という前向きな感想を得ました。貴重な気づきの場となりました。



松本会長との座談会風景

各地でミニイベントを活発に開催

啓発活動の一環として、各地の委員が中心となり、全国でミニイベントを延べ38回開催しました。事業所によって悩みも関心も違うため、テーマもさまざまです。

「異業種交流会」(広島工場)

三菱重工業(株)様の「フォーラム35」(同世代同士の交流を通じて仕事へのやりがい高める活動)メンバーの皆さんが広島工場を来訪し、活動の紹介や課題・ニーズ等を共有しあう会を開催しました。



「ワークショップ」(各務原工場(岐阜県))

2013年3月、社長の伊藤と役職者が、工場でのダイバーシティの実現に向け「私が思うダイバーシティとは?」を主題に直接対話をしました。伊藤による「ダイバーシティQ&A」は大盛況でした。



「ダイバーシティ委員会ミーティング」(本社)

各事業所のダイバーシティ委員が、丸の内本社に月1回集まりミーティングを行いました。笑顔あふれる楽しい雰囲気の中、活発な話し合いをしています。多様なメンバーで活動を盛り上げています。



地域社会のために

2012年度の主な成果

- 1 「カルビー・スナックスクール」がキッズデザイン賞(未来を担う消費者デザイン部門)で優秀賞を受賞
- 2 全グループでのべ5,706名の従業員が活動に参加
- 3 東日本大震災被災地支援を継続

カルビーグループ社会貢献 ミッション・ステートメント

私たちカルビーグループ社員は、良き市民として、
私たちが生活し、働いている地域社会、
さらには全世界の共同社会に貢献します。

社会貢献活動方針

カルビーグループは、行動規範に
「地域社会への貢献」を掲げています

私たちは地球からの恩恵を受けて、お客様からのご支援・ご理解により、事業を継続しています。工場や事業所においても、その地域に暮らす人々との共生は欠かせないものだと考えています。



グループ一体での社会貢献活動

カルビーグループは各事業体に社会貢献委員会を組織し地域貢献に取り組んでいます。「地域に密着して、汗をかく活動をする」ことを方針に、従業員が自ら地域社会への貢献を考え行動しています。従業員一人ひとりが他者に貢献できる人間に成長することは、カルビーグループが人々から愛される企業になるために不可欠なことです。

2012年度は、地域事業本部が積極的に活動を計画し、多くの従業員が参加しました。

おやつを通じた地域貢献

未来を担う子どもたちに正しい「食」の知識を知ってもらい取り組みを推進します

人々の健やかな暮らしに貢献するために、身近なおやつを通して食の正しい知識や楽しさを伝えるフードコミュニケーション活動を全国各地で行っています。カルビーのフードコミュニケーションは4つの推進テーマを掲げて活動しており、それぞれにおいて常に新たなコミュニケーションの創出に取り組んでいます。

なかでも、次世代を担う子どもたちの健やかな暮らしと成長をサポートすることを願い、おやつを通じた食育活動支援に注力して取り組んでいます。

フードコミュニケーション4つの推進テーマ

- 1 **楽しいおやつのおべ方提案**
小学校への食育出張授業「カルビー・スナックスクール」を中心に教育支援をしています。
- 2 **おやつコミュニケーション**
店頭や公共施設での親子に向けたイベントで、カルビーの安全・安心への取り組みやおやつのおもしろさを体験してもらいます。
- 3 **「自然の恵み」を生かした取り組み**
じゃがいもの栄養研究、学会発表、講演会などを行っています。
- 4 **「安全・安心」「環境」への取り組み**
カルビーのこれらの取り組みを工場見学を通して紹介しています。

楽しいおやつのおべ方提案

～「カルビー・スナックスクール」キッズデザイン賞 優秀賞受賞～

2003年から開始した「カルビー・スナックスクール」は、子どもたちに、身近なおやつを通じて「正しい食習慣」と「自己管理能力」を培っていただくことを目的に、従業員が講師となり小学校で授業を行っています。2012年度には、先生方のスケジュールに合わせて「カルビー・スナックスクール」が行えるように教材提供も始めたところ、出張授業、教材提供合わせて678校、児童・保護者は約5万2,000人にご参加いただきました。



スナックスクール



スナックスクールで教材として使用しているワークシート(左)とティーチャーズガイド(右)

また、「子どもと切り離せない「おやつ」をテーマにした食育プログラムだが、消費者教育という視点から見れば、子どもの「自らの食生活の見直し」プログラムであり、消費者行動の



授賞式

基礎とも言える。3,000校を超える実績があり継続性もある」と活動全体が評価され、第6回キッズデザイン賞(未来を担う消費者デザイン部門)で優秀賞を受賞しました。

～「じゃがいも見守り隊」で自然の恵みを知る～

保育園・幼稚園・小学校の庭でじゃがいも栽培を行い、その様子を栽培校同士でウェブ上でメール交流する「じゃがいも見守り隊」という活動を行っています。野菜の栽培が初めての子供たちも多く、「お芋から芽がでるんだ」「虫が葉を食べてしまった」など、自然に対するたくさんの驚きを体験していただいています。



小学校からの報告写真



園・学校掲示用のまとめ

おやつコミュニケーション

～食とスポーツのコラボレーションを推進～

カルビーがオフィシャルスポンサーを務めるJリーグと共同で、サッカーに食育の要素を加えたイベントを多数実施しています。参加した皆様に食やスポーツに触れることの楽しさ、

家族との触れ合い、そして自然素材の大切さを体感していただいています。

東日本大震災の復興支援の一環として、2012年11月には福島県内の小学生サッカーチームを招待し、「カルビー&Jリーグ元気にサッカー! スペシャル観戦ツアー!! 2012」を開催しました。まだ思いきり外で遊ぶことのできない子どもたちに笑顔の一日を提供しました。当日はJリーグOB選手にもゲームに交じっていただき、サッカー交流大会を楽しみました。



商品を作る喜びを地域の子どもたちに伝える

～お菓子コンテストを実施～

第2回お菓子コンテストを行いました。宇都宮市と首都圏の小学生から集まった274作品のなかから、選ばれた10作品のアイデア提案者とその家族をR&DDEセンターにお招きして表彰式を行いました。今年のテーマは「大好きな人と一緒に食べたいお菓子」です。10作品のうち4作品について、メンバーが知恵をしばってアイデアスケッチをもとにお菓子を試作しました。今までに見たことのないお菓子との対面に子どもも大人も大喜びでした。

今後もこのコンテストを継続し、ものづくりの楽しさをカルビーから発信していきます。



お菓子のアイデアスケッチ



表彰状を授与された子どもたち

「安全・安心」「環境」への取り組み

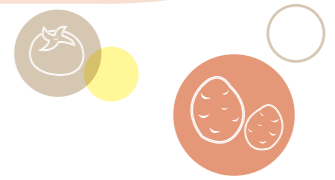
～工場見学を実施しています～

工場周辺のお客様に見学に来ていただき、どんな商品がどのように作っているのかを実際に見てもらうことでカルビーの仕事を理解していただく機会をつくっています。

工場敷地内で地元の方々と交流するイベントを行っている工場もあります。



かっぱえびくんが工場見学に登場(広島工場)



東日本大震災被災地支援を継続



1 カルビーポテトの被災地支援

カルビーポテトは、津波で実習畑が使えなくなった宮城農業高校に栽培用じゃがいも、肥料、農薬等の資材提供し、馬鈴薯栽培を支援しました。馬鈴薯についての座学も行い、学生たちは丹念に栽培をしていましたが、残念ながら5月の大雨で収穫ができませんでした。そこで契約圃場にて収穫体験をしていただきました。その後、学生がみずからスーパーマーケットの店頭で立ち、収穫した馬鈴薯の販売実習を行いました。



宮城農業高校の生徒さんたち

2 「ニコニコ子ども基金」被災地NPOを支援

東日本事業本部では「ニコニコ子ども基金」を設立し、NPOを通じて東日本大震災で被災した地域の子どもたちを支援しています。いしのまき大漁まつりには遊具を提供して、子どもたちと一緒に遊ぶボランティアをしました。また、石巻市大街道地区の在宅被災者の親子約20名を仙台の泉岳少年自然の家へ招待しました。石巻では被災した外国人の奥様とお子様たちを支えるNPOが主催する料理教室でみなさんと交流しました。

3 いわき市久之浜地区でボランティア活動を実施

2012年6月に「Calbee Award 2011」を福島県で開催しました。グループに貢献した活動を表彰するイベントを通じて、従業員みずから被災地を見て、考える機会になりました。イベント翌日にはマネジメント層も参加して久之浜地区の緑地整備のボランティアを行いました。

4 従業員へのTシャツ販売で「みちのく未来基金」を支援

ロート製薬、カゴメ、カルビー3社が発起会社となり2011年に「みちのく未来基金」を設立しました。震災により、親を亡くした子どもたちの進学を支援しています。2期奨学生122名が新しい生活をはじめます。寄付つきオリジナルTシャツを従業員が購入しました。135万円あまりを「みちのく未来基金」に寄付しました。また、給与天引きによる寄付もはじめました。



さまざまなボランティア活動で着用

従業員自らが計画して地域貢献活動を実施
～各事業本部の取り組み～

カルビーでは、工場や営業所の従業員が自ら地域貢献のアイデアを練り、活動しています。2012年、中日本事業本部ではすべての事業所で清掃活動を実施。また、あいち海上(かいしよ)の森センターと企業連携プロジェクトを締結

し、間伐などの森林整備を行いました。

そのほかにも、イベント会場で「みちのく未来基金」への寄付を呼びかけたり、いわき市の復興イベントでボランティアを行うなど、多くの従業員が活動に参加しました。



あいち海上(かいしよ)の森の手入れ

「カルビーミナミナの森」で森林保護活動を継続

支笏湖近くの国有林を借用し、森林保護活動をしています。2012年は新たに996本の苗木を植えました。また、昨年植樹したエリアでは根踏みや植え替えの作業も行いました。



従業員家族も一緒に参加

日本の森林を守るプラットフォームの取り組み

環境保護活動を通じて排出権クレジットの認証を受け、それを販売したい森林事業者、クレジットを購入して環境貢献型プロモーションに活用したい企業、そのプロモーションに参加して環境貢献したいと考える消費者を結ぶプラットフォームが2011年、誕生しました。これは輸入材に押されて危機的状況にある国内の森林を守るための取り組みで、カルビー・カルネコ事業部と三菱UFJリース様が事務局(EVI推進協議会)

となって活動を行っています。カルネコ事業部が開発したEVI(Eco Value Interchange)を通して、企業はクレジットを商品につけて販売し、売上の一部を国内の森林保護活動に寄付するなどのキャンペーンを実施。消費者はその商品を購入することで、森林や被災地に資金が還流され、間接的に保護活動の支援ができます。



Eco Value Interchange
日本の森と水と空気を守ります。

2012年度は製販協働の全国企画として、復興支援を目的とした「あなたが選ぶ!ともに生きる!」消費者参加キャンペーンなどを実施。全国35企業1,828店にご参加いただき、対象の防災関連商品の購入代金の一部で被災地から発行されるクレジットを購入し、復興支援につなげました。2013年度は後援も日本スーパーマーケット協会等2協会(昨年)から5協会に広がり、全国1万店の展開を目指しています。

各地で献血を実施

本社オフィスや工場での献血を行いました。なかなか自分では行かないけれど、会社でできるのなら、と従業員のみならず配送に来てくださる会社の方々にもご協力いただきました。



スナックフード・サービスでの献血



カルビーグループの1年間の活動(抜粋)～年間を通じて、全国各地でさまざまな活動を展開しています～

	2012年					2013年																
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月										
子育て支援	●宮城農業高校への農業支援開始(カルビーポテト) ⇒P32		●陸前高田市の小友小学校の児童と家族を遠野市に招き、「おやつ」の学校を開催(東日本)	●小学校10校で「お菓子コンテスト」のアイデアを募集(本社) ⇒P31	●1型糖尿病の子どもたちのキャンプにボランティア参加(北海道)	●パップキッズこおりやまでワークショップを開催(東日本)		●第6回カルビーカップ廿日市小学生駅伝大会を開催(西日本)	●サンタボランティアが千代田区の育児施設を訪問(本社)	●福島県の子どもたちを招いた埼玉上尾市の「サッカー交流会」を支援(東日本)	●第2回びわ湖カップなでしこサッカー大会にボランティア参加(中日本)	●西方子ども会&西方自治会の方々を招き、工場見学を実施(タワーベーカーリー)										
地域への支援	●千代田区一番町特別養護老人ホームのお花見見助ボランティアに参加(本社)	●千歳工場周辺の定期清掃活動(北海道)	●千代田区一番町特別養護老人ホームを慰問(西日本)	●「びえいヘルシーマラソン」の給水ボランティアに参加(北海道・カルビーポテト)	●工場周辺の清掃と緑化活動(タワーベーカーリー)	●宮城県七ヶ浜町ボランティア(本社・東日本・オイスカ他)	●工場周辺の清掃と緑化活動(タワーベーカーリー)	●鹿児島工場周辺清掃(西日本)	●水害被災地、星野村で清掃ボランティア活動(西日本)	●ねぶた祭参加(東日本)	●各務原市福祉フェスティバルでの募金活動(中日本)	●古河関東ド・マンナカ祭りに参加(ジャパンフリース)	●おはら祭に参加(西日本)	●本社・近畿支店献血活動(本社・中日本)	●大阪市清掃局が実施する「清掃ボランティア」に参加(中日本)	●各務原工場献血活動(中日本)	●石巻被災者料理イベントを支援(東日本)	●小貝川ふれあい花の会の活動として除草作業を実施(東日本)	●埼玉県、東松山工場で観梅会を開催(東日本・スナックフード・サービス)	●第14回古河まくらがの里・花桃ウォークに参加・協賛(JFL)	●支店周辺の清掃活動(中日本)	
環境の保護	●宮島の海岸清掃に参加(西日本)	●日光市足尾での植樹活動(SFS)/「ミナミナの森」で根踏みを実施(北海道) ⇒P33	●「かつば恵みの森」森林活動(中日本)/海の中道海浜公園環境共生の森で植栽(西日本)	●福岡市和白干湯で清掃活動(西日本)	●「かつば恵みの森」森林保護活動(中日本)/「ミナミナの森」での植樹活動(北海道) ⇒P33	●福岡市和白干湯で清掃活動(西日本)	●福岡市和白干湯で清掃活動(西日本)	●あいち海上(かいしよ)の森で第1回間伐活動(中日本)	●あいち海上(かいしよ)の森で第2回間伐活動(中日本)													

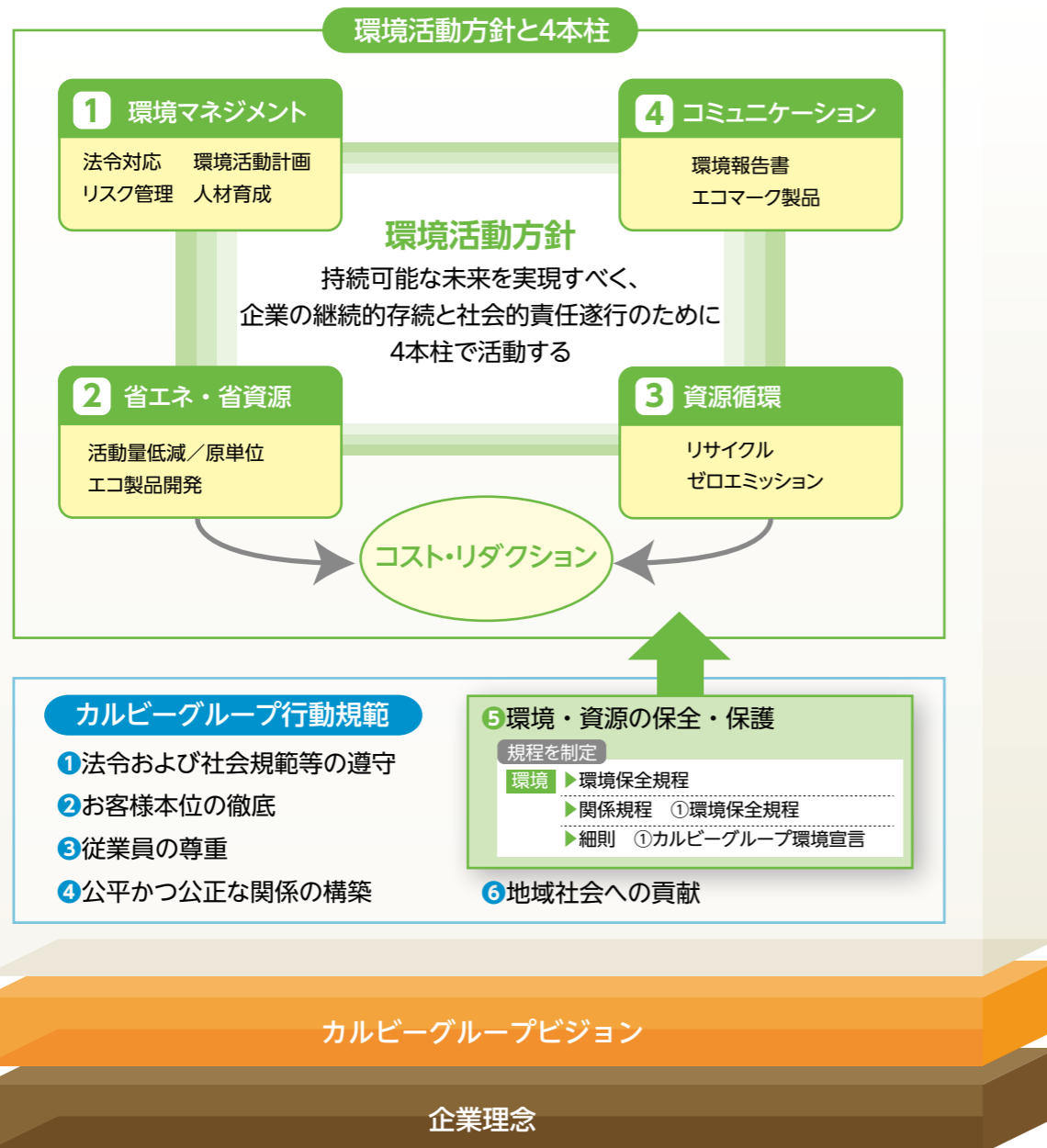
環境マネジメント

2012年度の主な成果

- 1 環境保全規程の制定・環境宣言の発表
- 2 新宇都宮工場の「排水利用ヒートポンプへの取り組み」が平成24年度省エネ大賞(省エネルギーセンター会長賞)を受賞
- 3 工場廃食油のバイオディーゼル燃料(BDF)化を推進



環境理念体系



「環境保全規程」と「カルビーグループ環境宣言」の制定・発表

2012年5月に「環境保全規程」・
「カルビーグループ環境宣言」を制定しました

カルビーグループは、企業理念“私たちは、自然の恵みを大切に活かし、おいしさ楽しさを創造して、人々の健やかな暮らしに貢献します”を掲げています。そして、その実現に向けて日々まい進し、グローバル社会の一員として、世界に通用する最高レベルの商品を提供し続けることにより、良き企業市民として社会の発展に貢献すべく、グループ企業一体となりCSR活動に力を入れています。

この企業理念とCSR活動の精神を環境対策の方針にも取り入れ、省エネ活動、廃棄物削減、水削減等を配慮しつつ、環境対策における役割を積極的に果たしていきます。そしてこれらの考え方を具体的に行動レベルに落とし込むために“環境保全規程”を制定しました。

握りだそう、自然の力。
Calbee

カルビーグループ 環境宣言

I. 環境に対する基本的な考え方

『握りだそう、自然の力。』
カルビーグループは、このコーポレートメッセージのもと、地球が育んだ自然の恵みを大切に、お客様にお届けしています。

自然の生命力、可能性を握りだすとともに、地球が育んだ自然の恵みを大切に使い、できる限り自然のカタチに戻して、地球にお返しします。

地球のすべての動物、植物と共にくらす一員として、すばらしい自然の力を、未来の世代につなげていきたい、そして、すべてのステークホルダーの皆様から「愛される」企業になりたい、それがカルビーグループの願いです。

II. 環境方針

1. 環境に関する法令、条例等を遵守します。
2. 人々の健康や地球環境に配慮した安全な商品の提供に努めます。
3. 地球温暖化につながるCO₂の排出抑制に努めます。
4. 自然の恵みである原料を無駄なく活用するとともに、廃棄物および水使用の削減を目指します。
5. すべての従業員で、環境保全に取り組みます。

以上
2012年 5月 1日
カルビー株式会社
上級執行役員 生産本部本部長
谷口 豪

環境宣言

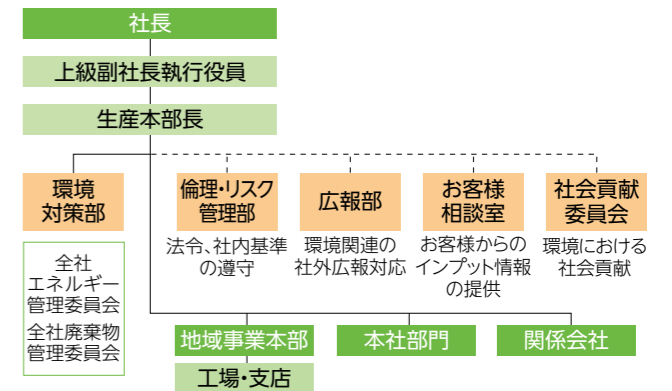
環境マネジメントの推進

グループ全体での環境マネジメント体制を構築しています

自然の恵みをカタチにしてお客様にお届けしているカルビーグループにとって、環境問題への取り組みは不可欠です。資源の有効活用はもちろん、できる限り自然のカタチに戻して、地球へお返しします。また、CO₂排出量の削減や省資源活動に、グループを挙げて取り組んでいます。カルビーグループは2008年に「CO₂削減プロジェクト」を発足し、CO₂削減のために全社で省エネルギー・省資源を推進しています。この取り組みを強化していくために、2009年度には「環境対策部」を設置し、活動方針を定め、社内の各部門と連携しながら「全社エネルギー管理委員会」「全社廃棄物管理委員会」など、活動テーマ別の担当者会議を定期的開催して計画策定に取り組むなど、PDCAサイクルに沿って活動していくための仕組み作りを進めています。

また、全従業員に向けて環境への意識を啓発する活動も行っており、従業員が一丸となって環境目標の実現に向けて取り組む企業風土を確立しています。

環境活動推進体制



環境法規制遵守の状況

1件の法令違反があり、再発防止に努めました

カルビーグループは環境関連の各種法令や規制を遵守していますが、2012年度は1件の法令違反(排水の水質基準値オーバー)が発生してしまいました。原因調査の上、自主基準値管理方法の見直しを行いました。

地球温暖化防止への取り組み



● 社内外に向けての環境情報の発信

法令改正の説明会、スキルアップセミナーを実施しました

環境マネジメントの強化に向けて、環境対策部は社外の勉強会や講演会に出席して知識・ノウハウを高めています。また、定期的な担当者会議で法律改正に対応した各工場の取り組みなどを情報共有し、社内報やメール配信で全従業員に伝えています。

2012年度は、全社・廃棄物管理委員会において、新たに法令改正の説明会、スキルアップセミナーを実施しました。今後も年1回の説明会を実施していく予定です。

このほか、小学校へ出張授業「カルビー・スナックスクール」のオプションとして環境に関する授業を実施したり、2012年度には大学生を対象とした講演を実施しました。講演では、100名以上の環境を専攻している学生にご参加いただきました。

● 環境意識向上のための取り組み

従業員一人ひとりが環境を意識し、行動に移すことを目的としています

カルビーグループ全従業員の環境意識を高めるために、環境対策部が中心となり、2010年4月より「Calbee Green 通信」を毎月発行し、全従業員に送付しています。現在の地

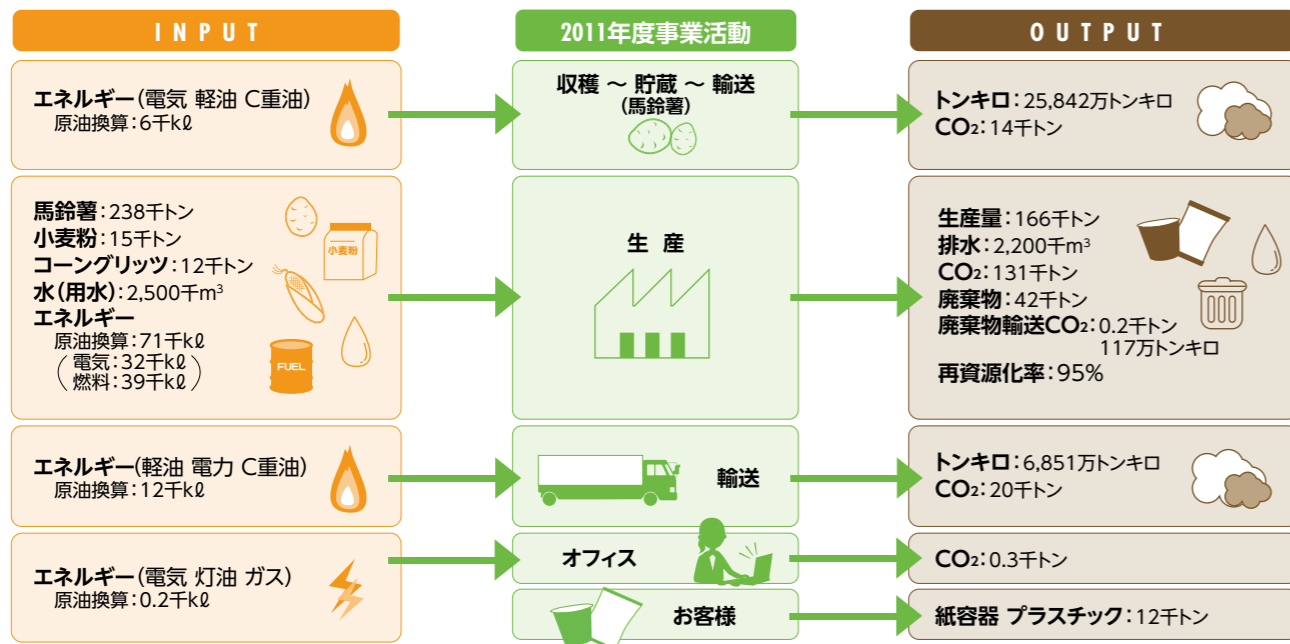
球環境の状況や環境用語の解説、また、カルビーの各グループ会社、工場における環境への取り組みなどを紹介することで、従業員一人ひとりが環境への意識を高め、実際に節電などの行動を起こしてもらうことを目的としています。

2012年度は、全社・廃棄物管理委員会外部講師を招き、情報提供やセミナーを各部署の環境担当者に向けて開催しました。また全社エネルギー管理委員会では、前年度から引き続き、事業所、工場の省エネ活動をベースとしながら管理標準を作成・運営し、設備投資として省エネ設備の導入などを行いました。



Calbee Green通信

■ 2011年度の事業活動と環境負荷の全体像



※集計対象組織:国内カルビーグループ会社

● CO₂削減の取り組み

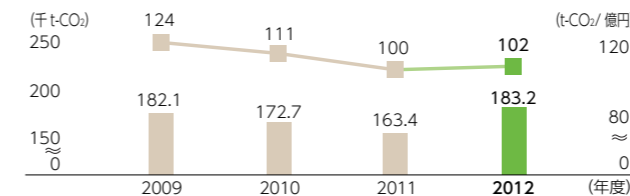
CO₂排出量はグループ全体で12%増加、エネルギー使用量は原油換算ベースでは2%増加でした(2011年度比)

カルビーグループでは各商品の原料調達、生産、流通販売、使用維持、廃棄リサイクルに至るまでのバリューチェーンにおけるCO₂排出量を算出し把握することで各部と連携し、CO₂排出量削減を図っています。

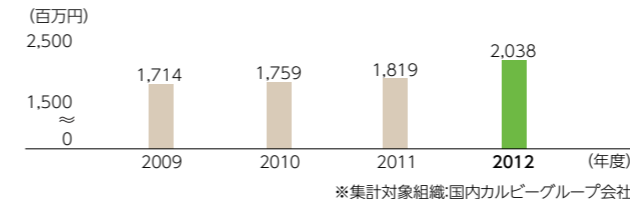
2012年度にCO₂排出量が増えたのは、生産量が増加したこととCO₂排出係数が大幅に増加したためです。ただしエネルギーの使用量は、エネルギー原単位が昨年より低かったため、2%の増加に抑えることができました。

2012年度も省エネ対策に積極的に取り組み、電力の見える化を全国展開し、各工場、オフィスで電力のピークカットに取り組みました。今後も継続的に取り組むとともに、エネルギーの需給構造の改善も進めていきます。

■ CO₂排出量および原単位の推移



■ 電力購入費の推移



※集計対象組織:国内カルビーグループ会社

● 工場でのCO₂削減

継続して省エネに注力して取り組みました

カルビーグループの各工場では、生産時のCO₂の発生を抑制するために、ラインごとのエネルギー消費量の集計・開示や、省エネ診断の実施、省エネ策の提案募集を通じて、生産スケジュールの改善など、さまざまな取り組みを進めており、CO₂排出量の削減に努めています。

また、環境対策部が中心となって、各工場の担当者を集めた「全社エネルギー管理委員会」を開催し、各工場のエネルギー使用量削減の取り組み紹介などを行っています。

2012年度は生産効率を上げるため、複数の工場で分散

して作っていた商品を少数の工場に集約させて生産することで、エネルギー消費量の抑制に貢献しました。

● 輸送時のCO₂排出抑制

エコドライブ、モーダルシフトを推進しています

カルビーは2007年に「特定荷主」に指定され、毎年国へ輸送エネルギーの実績、削減計画を報告し、毎年10%の原単位削減に取り組んでいます。

これまで物流会社様との協働で①配送ルートの見直し ②エコドライブによる燃費改善 ③共同配送の拡大 ④長距離輸送のモーダルシフト(トラック→鉄道)に取り組み、2006年度比で5.4%の削減となっています。

今後は、これまで分散して作っていた商品を一括にまとめて生産し、生産効率の向上を図りながら輸送時のCO₂排出量を削減し、バイオディーゼル燃料の使用を促進していきます。

● エコドライブの推進

物流業務を担うグループ会社のスナックフード・サービスでは、物流会社様と協働して燃費改善を推進しています。アイドリングなど、ドライバーのエコドライブ状況を表示できる車載器を配送車両へ搭載することで、事故の発生、燃料の消費、CO₂の排出を抑制しています。2012年度は、配送レギュラー車両の約91%にあたる536台に搭載しました。

■ エコドライブ車載器搭載台数の推移(台)

年度	2009	2010	2011	2012
エコドライブ車載器搭載車	399	458	496	536

TOPICS

バイオマスボイラーの導入効果

カルビーポテト帯広工場では、燃料の一部を従来の重油から、植物由来の木質チップに切り替えることで、CO₂排出量を削減できる木質バイオマスボイラーを2010年3月より導入しており、2012年度はCO₂排出量を約7,780トン削減しました。

この取り組みは「2011年度北海道グリーン・ビズ認定制度」(環境に配慮した取り組みを自主的に行っている事業所等を登録・認定する制度)の「創意あふれる取組」部門(創意にあふれ、他の事業所の模範となるような優れた取り組みを実施している事業所等を認定)「地球を守る心」分野で認定され、表彰されました。



認定マーク



● 共同配送の拡大

お客様への製品配送においては、ほかの菓子メーカーと共同配送することで、積載率をアップし、配送車両、CO₂排出量の削減を目指しています。2012年度は9月より中四国エリアでグループ企業との共同配送を開始しました。これによりCO₂排出量を555トン削減しました。

■ 共同配送によるCO₂削減量推移 (t-CO₂)

年度	2009	2010	2011	2012
共同配送によるCO ₂ 削減量推移	446	362	534	555

※ 集計対象組織：国内カルビーグループ会社

● 省エネへの取り組み

工場での電力使用量の見える化など
省エネルギーへの意識啓発に取り組みました

● オフィスでの取り組み

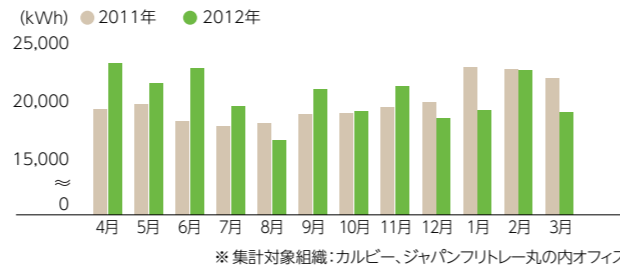
カルビーグループでは、生産・物流の現場だけでなく本社をはじめとするオフィス部門でも省エネルギーを推進しています。

各職場の電力使用量やそれに伴うCO₂排出量を社内のデータベースで管理するなど、全従業員に対して省エネルギーへの意識を啓発しています。

2012年度は冷暖房設定温度の適正化、クールビズ、サ

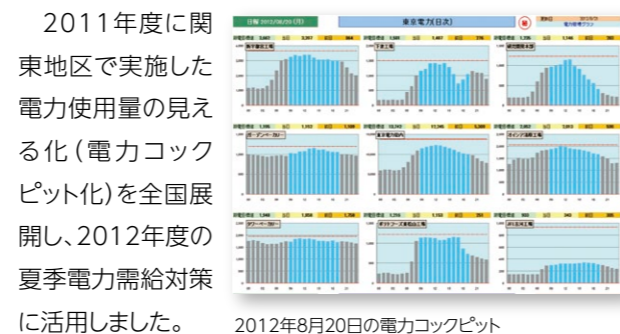
マータムの実施、電力需要のピークをずらすなど省エネを継続しました。

■ 本社(丸の内オフィス)電力量推移(照明・コンセント)



● 工場での取り組み

各工場で自主的にさまざまな取り組みを行い、カルビーグループ全体で、エネルギー使用量の削減に努めました。今後は、2012年度に省エネルギーセンター会長賞を受賞した新宇都宮工場のヒートポンプをほかの工場にも展開できるように取り組んでいきます。



資源の有効活用

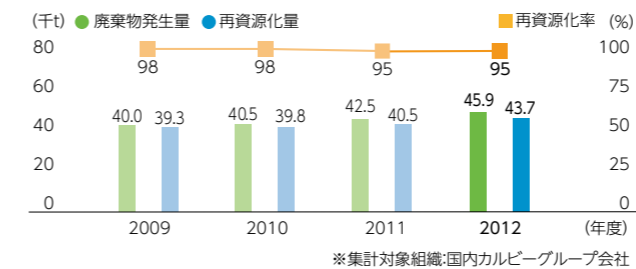
● 廃棄物の削減と再資源化

再資源化率95%を達成しました

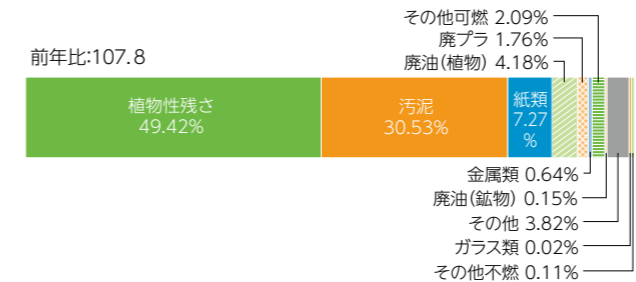
カルビーグループでは、循環型社会の構築に向けて、廃棄物の削減と再資源化の取り組みを推進しています。生産工程においては、分別収集の推進、廃棄物発生量の抑制のほか、リサイクルフローを策定し、じゃがいもの皮・ロス分などの植物性残さの飼料化や微生物を使った排水の浄化など「ゼロエミッションの推進」と「リサイクル」を柱に活動しています。

2012年度は各工場の担当者を対象とした「廃棄物セミナー」を実施し、実際に工場の廃棄物の状況を見てまわるなどのリスク診断を行いました。これからも従業員の研修を実施し、工場でのロス削減活動、植物性残さの有効利用の用途開発などに取り組んでいきます。

■ 廃棄物発生量と再資源化量、再資源化率の推移



■ 廃棄物発生量の種類別内訳(2012年度)



● 使用後の油の再生処理

フライヤー(揚げ調理器)の清掃時などに出る廃食油は、専門業者に委託して再生処理しています。再生された油は、飼料製造時の添加油やバイオディーゼル燃料(BDF)として利用されています。

● 廃包装フィルムの100%リサイクル

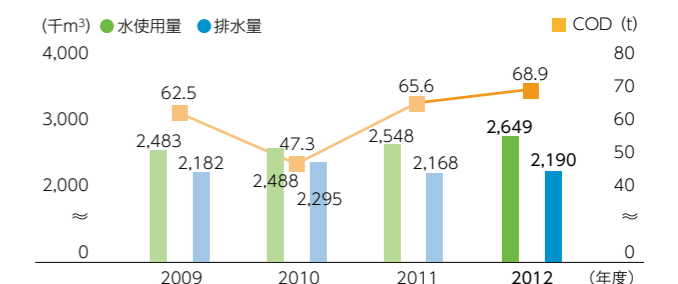
工場では、フィルムなど包装用プラスチック類の廃棄物を専門業者へ委託し、ごみ固形燃料として100%リサイクルしています。固形燃料は、高発熱量で燃焼効率も高いため、セメント会社の焼成炉や製紙会社のボイラーなどの補助燃料として活用されています。

● 水資源の有効活用

排水管理を徹底しています

カルビーグループでは将来的に排水をリサイクルし、循環利用する取り組みを進めています。2012年度は排水に関する知識を体系的に学ぶ場として「排水処理セミナー」を実施し、具体的な活動を開始しました。今後もさらなる水使用量の低減と有効活用に努めていきます。

■ 水使用量、排水量およびCOD(化学的酸素要求量)の推移



TOPICS

工場廃食油のバイオ燃料化

環境対策部は、企業活動で発生する廃棄物を新たな資源に再生し、可能な限り自社内で使用する、「自社内資源循環」を進めています。

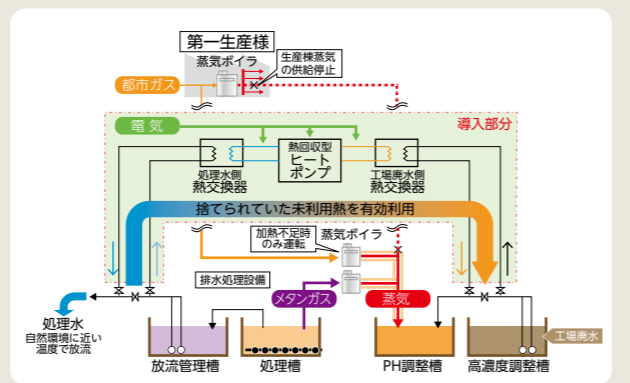
その一つに、工場から出る廃食油からバイオディーゼル(軽油の代替液体燃料)をつくり、フォークリフトや物流パートナー様の製品配送トラックに使用するという取り組みがあります。2011年度に北海道千歳工場で使用を開始、2012年度は新たに下妻工場の車両・フォークリフトにも使用され、年間200リットルドラム缶310本分をバイオディーゼルに転換しました。バイオディーゼル燃料によるCO₂排出量は国際ルールによりカウントされないことになっており、地球環境にもやさしい燃料です。今後もさらに他工場への展開を目指して取り組んでいきます。



TOPICS

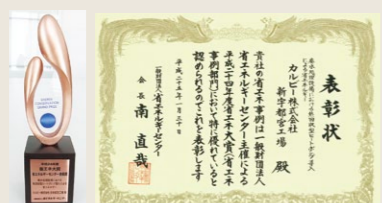
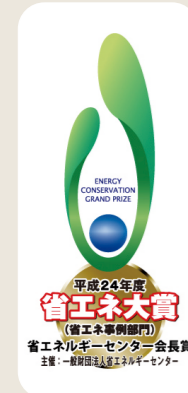
ヒートポンプの導入

新宇都宮工場で実施していた、廃水処理設備にヒートポンプを導入し、CO₂を削減する取り組みが認められ、2012年度「省エネルギーセンター会長賞」と「関東地区電気使用合理化委員長表彰」を受賞しました。これまで捨てられていた処理水の未利用熱をヒートポンプで回収し、蒸気に代わって工場廃水を加温することで、ボイラーから供給される蒸気を削減すると同時に蒸気配管の放熱等も削減するというシステムです。この取り組みにより、熱ロスは



4,833GJから1,703GJに削減され、CO₂排出量も半減しています。今後は他事業所への展開を図り、さらなる環境負荷低減に努めていきます。

*1GJ(ギガジュール)=10⁹J



安全を確保し 食品業界の愛される トップリーダーへ



明治大学 名誉教授
電子情報通信学会
安全性研究専門委員会 委員長

むかいどの まさお
向殿 政男 様

社会・環境報告書を読ませていただきました。カルビーが、私たちの日常生活で最も身近で大事な「食品」を扱う企業として、社会の中で生かされ、愛され、信頼されながら持続的に発展していくためには、何が必要なかということを実際に考え、そのために色々と努力されていることがよく分かりました。品質、環境、地域貢献等と幅広い活動をされていますが、ここでは、その中で特に安全、安心の面からコメントをさせていただきたいと存じます。

事故の未然防止と情報開示

カルビーに、「堅あげポテトにガラス片混入」という安全問題があったことが、トップの言葉として語られていますが、これは素晴らしい姿勢だと思います。良い情報も、悪い情報も、即座に包み隠さず積極的に開示することは、企業が社会からの信頼を得るための第一歩だからです。今回の事故後、素早く自主回収を開始し、多くのことを学んだことも、高く評価されます。一方、事故から学ぶことも大事ですが、未然防止の方がより重要なのは明らかです。お客様からの情報や社内からのヒヤリハット情報は、事故の未然防止には大変有効です。これらに関連して、本報告書には、品質保証本部を中心に予防策を講じると共に迅速な対応ができる体制を整

えていること、外部監査としてAIBフード監査を導入していること、生産者と連携しての品質改善に努めていること、品質を高める人材育成に努めていること、及びパッケージに製造年月日、賞味期限等を分かりやすく読みやすく明確に表記する配慮や、食品アレルギーへの配慮等、お客様へ積極的に情報を開示していること等が記されており、高く評価出来ると思います。

安全文化の醸成

全社対応のお客様相談室を設けてお客様満足度の向上に努めていると共に、お客様の声を社内で共有し、それを製品開発に反映していることは、大変よいと思います。ただし、「消費者からのクレーム対応」という言葉が出て来ますが、そろそろこの言葉は撲滅した方がよいのではないのでしょうか。お客様からの声はクレームどころか貴重な情報です。そして、安全は、お客様も含めて皆と一緒に創り上げていく時代だからです。

現場での安全活動、特に品質管理を中心とした安全の取り組みの活動がトップにどのように伝わり、社内全体にどのように広がって理解されているのか、すなわち社内での相互理解、関係者間での意思疎通と風通しの良さについては、更に充実させる必要がありそうです。企業の安全文化の醸成にとって、極めて重要であると思うからです。

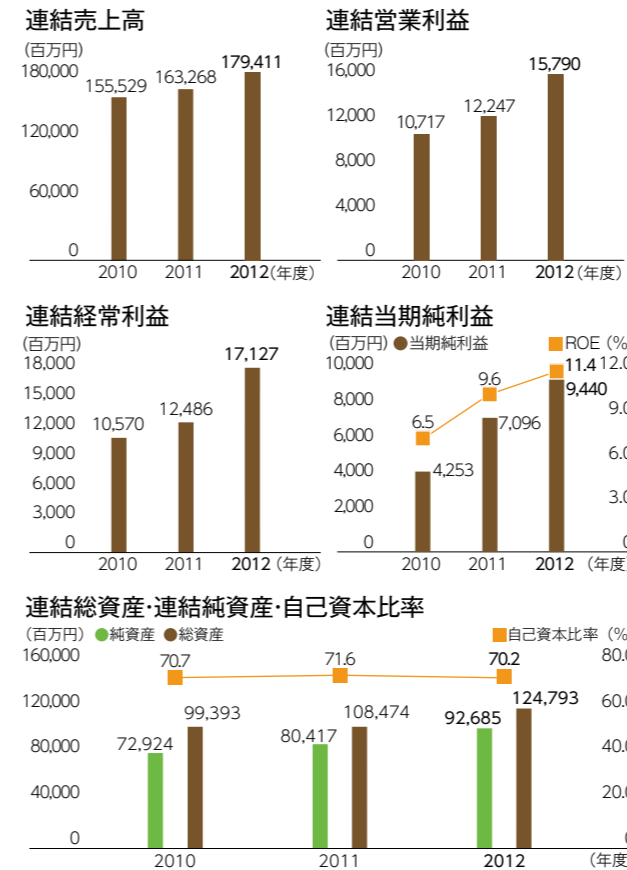
安全確保が第一

お客様は安心を求めています。食品企業としては、従業員、取引先、サプライチェーン等も含めた全体の取り組みで安全を確保することを第一とする基本理念を大事にし、これまでの活動を風化させずに、愚直に活動を続けることで、そして時代の価値観の変化に柔軟に応えることで、お客様からの信頼を得ることが出来るはずで、信頼を通して安全は安心につながります。カルビーが、お客様からの信頼を勝ち取って、安心してもらえるような食品業界の愛されるトップリーダーになることを期待しています。

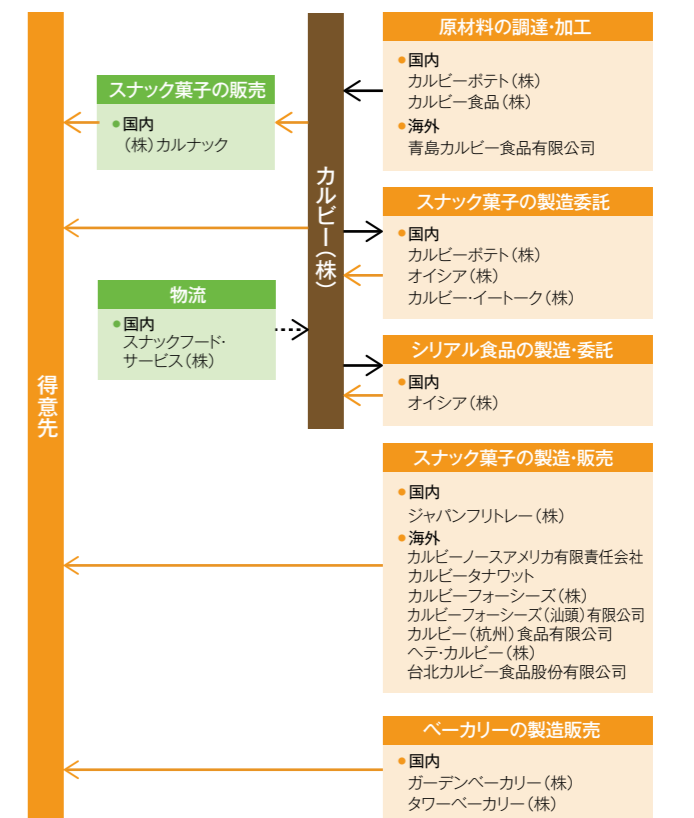
会社概要

商号 …… カルビー株式会社
CALBEE, Inc.
本社 …… 〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-8-3
丸の内トラストタワー本館22階
電話番号 …… 03-5220-6222(代表)
設立 …… 1949年4月30日
代表者 …… 代表取締役会長 兼 CEO 松本 晃
代表取締役社長 兼 COO 伊藤 秀二
資本金 …… 115億86百万円
事業内容 …… 菓子・食品の製造・販売
売上高 …… 1,794億11百万円(連結)
(2013年3月期実績)
従業員数 …… 3,352人[2,753人](連結)
(2013年3月31日現在)
※外書き[]は臨時従業員の年間平均雇用人数

関連会社 …… 国内:9社 カルビー食品(株)、カルビーポテト(株)、スナックフード・サービス(株)、
ガーデンベーカリー(株)、タワーベーカリー(株)、(株)カルナック、
オイスシア(株)、カルビー・イートーク(株)、ジャパンフリトレー(株)
海外:9社 カルビーノースアメリカ/米国、カルビー・タナワット/タイ、
カルビーフォーシーズ/香港、
カルビーフォーシーズ(汕頭)有限公司/中国、
青島カルビー食品有限公司/中国、烟台カルビー商貿有限公司/中国、
カルビー(杭州)食品有限公司/中国、ヘテ・カルビー/韓国、
台北カルビー食品股份有限公司/台湾
事業本部 …… 北海道、東日本、中日本、西日本
自社工場 …… 千歳、新宇都宮、研究開発本部、下妻、各務原、綾部、湖南、広島東棟、
広島西棟、鹿児島
協力工場 …… カルビーポテト帯広工場、北海道フーズ、ポテトフーズ関東工場、オイスシア清原工場
支店 …… 北海道、東日本、東京、中部、近畿、中四国、九州
物流センター …… 千歳、宇都宮、東松山、各務原、滋賀、広島、鹿児島
研究開発本部 …… 宇都宮



カルビーグループ会社相関図



※1 主要な取引のみ記載しております。
※2 当社は、平成21年6月、PepsiCo, Inc. (その他の関係会社)と戦略的提携契約を締結しております。

カルビーブランド(主要製品)

